

福 岡 大 学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年 報

令和4年度（2022）



福岡大学スポーツ科学部

第8号

福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年報

令和四年度（2022）

福岡大学スポーツ科学部

第8号

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 挨拶 | 1 |
| 活動内容 | |
| 1 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー | |
| (1) スポーツ科学部 | 5 |
| (2) スポーツ健康科学研究科 | 9 |
| 2 活動年譜 | 12 |
| 3 教員組織および担当者 | 15 |
| 4 入試状況、学生数および卒業生数、出張講義 | |
| (1) スポーツ科学部 | 18 |
| (2) スポーツ健康科学研究科 | 21 |
| 5 教育活動 | |
| (1) 入学前教育 | 22 |
| (2) 新入生懇談会 | 22 |
| (3) クラス面談・修学指導 | 23 |
| (4) フレッシュマンセミナー授業方法 | 25 |
| (5) ステップアップセミナー授業方法 | 29 |
| (6) 授業用教材ツールの活用について | 31 |
| 6 研究活動 | |
| (1) スポーツ科学部 | 34 |
| (2) スポーツ健康科学研究科 | 34 |
| 7 FD・SD 活動 | |
| (1) シラバス点検 | 35 |
| (2) 学外研修参加 | 35 |
| (3) ワークショップ、研修会の開催 | 36 |
| (4) 授業アンケート | 38 |

| | | |
|----|----------------------------------|----|
| 8 | スポーツ振興・地域連携・社会貢献 | 41 |
| | 高大連携 | 44 |
| 9 | 国際交流 | 46 |
| 10 | 教職課程 | 48 |
| 11 | 就職・進路 | |
| | (1) スポーツ科学部 | 50 |
| | (2) スポーツ健康科学研究科 | 51 |
| 12 | 広報推進 | 52 |
| 13 | 外部資金獲得実績 | 54 |
| 14 | リスクマネジメント委員会 | 56 |
| 15 | 関連資料一覧 | 58 |

学部・研究科のさらなる前進へ

スポーツ科学部長 米沢 利広
スポーツ健康科学研究科長 上原 吉就

スポーツ科学部とスポーツ健康科学研究科では、2015年度版から学部と研究科の年間活動を総括し、記録に残すとともに学内外にその成果を公表する目的で、2016年秋に「スポーツ科学部・スポーツ健康科学研究科年報」を創刊しました。本年報は、2022年度版（第8号）になります。学部・研究科教員の研究活動（研究業績）と社会活動、競技・指導活動は「スポーツ科学研究（大学研究紀要）」に、また現在学部として取り組んでいる教育プログラムの「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と「ココロとカラダのウェルネスプログラム」は別冊あるいはスポーツ科学部ホームページ上の電子ファイルとして詳細を掲載していますので、本年報（第8号）はこれら以外の内容になります。具体的には、目次をご覧ください。

スポーツ科学部は、1969年（昭和44年）体育学部体育学科として学生定員100名で創設されました。その後、学生定員増（臨時定員増を含め）を何度か経て現在の学生定員295名となっています。1998年（平成10年）スポーツ科学部への名称変更とともにスポーツ科学科と健康運動科学科の2学科へ改組転換し現在に至っています。2019年（平成31年＝令和元年）には、学部創設50周年を迎え、盛大に記念式典を行いました。2022年（令和4年）3月277名の卒業生を加えて総数12,221名を輩出しています。

スポーツ健康科学研究科は、1990年（平成2年）体育学研究科体育学専攻修士課程として6専修部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、健康運動学）を創設しました。2003年にスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称し、2022年度からスポーツマネジメント学、スポーツ整形外科学が増設、また2023年度からはスポーツ行動科学が増設され、現在6部門15専修となっています。博士課程後期では2004年にスポーツ健康科学専攻博士課程を2部門（健康運動科学、スポーツトレーニング科学）増設しており、より多様で多くの大学院生を受け入れる体制を構築しています。

2023年3月では、9名の修了生を加えて総数475名の修了生（修士課程429名、満期退学者を含む博士課程46名）を輩出しています。

2013年（平成25年）12月から学部役職員の変更に伴う新体制がスタートし、“**学部の魅力づくり**”をテーマに、“**FUSS Active Plan（福岡大学スポーツ科学部推進計画）**”の名称で取り組んでいます。スポーツ・健康運動に関する分野において社会を先導する高い専門性と気概を持った人材の育成（教育面）に加えて、これを実現できる教育環境づくり（教育組織、FD・SD）、並びに教育や社会に資する研究環境の整備（研究面）を推進し、さらに近未来に向かって学部が独自に取り組む特別プロジェクトを推進することで、“**学部の魅力づくり**”の向上を目標としています。

2020年（令和2年度）からの「新型コロナウイルス」感染症の影響で令和4年度の入学式は、新入生だけの出席で保護者は来場できず簡素化されて行なわれました。福岡県による緊急事態宣言やまん延防止等措置期間の発令などがありましたが、学部指導懇談会や学部祭は簡略して行な

うことができました。授業においては、これまでリモートによる遠隔授業も行なわれていたが、2022年度（令和4年度）からは対面授業を中心として行なわれ、前期、後期の定期試験も対面で実施されました。キャンプ実習は、本学での実習となりましたが、スキー実習やスケート実習については、新型コロナ感染症前の状況で実施することができました。卒論発表会は、昨年同様リモートによる発表となり、謝恩会などの行事は残念ながら中止となりました。このような状況の中で「**FUSS Active Plan**」を中心とした学部のさまざまな取り組みが少し停滞することになってしまったことは残念です。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行することで、これまでと同様の取り組みが行なわれることを期待します。このような状況でも教職員の努力により次のような活動が行われました。

- 1 高大連携及び附属高校委員会では、「福岡市立高等学校と福岡大学との教育に関する連携協定」を利用し、博多工業高校や柏陵高校でメンタルトレーニングに関する講演を行なった。出張講義においては、対面とリモートでの講義の両方を行なった。また、附属若葉高校とは、サッカー部、ハンドボール部及び水泳部で強化の連携が行われ、徐々に連携強化の実績が出てきています。
- 2 スポーツ振興・地域連携・社会貢献推進委員会では、ミズノ株式会社との連携協定により、ピークパフォーマンス演習への講師派遣と「アクアフィット教室」が行われました。昨年に引き続きタペストリーを作成し、第二記念会堂と文系センター1Fプラザ50にも展示しました。UNIVASとの連携事業では、ステップアップセミナーにおいて「人間力向上セミナー」を対面で行ないました。UNIVAS Awardsでは、5部門（入賞2、優秀賞3）で表彰を受けました。UNIVAS Cupでは9位となり、多くの運動部が高成績を収めました。スポーツ庁委託事業「地域振興モデル創出支援事業」に採択され、2022年（令和4年）9月、「福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム」（FUスポまちコンソーシアム）が設立されたことで、スポーツ体験ランド in 城南区、スタージャンプ福岡 in 福岡大学、キリン幼稚園運動会 in 福岡大学、大人のラグビー体験教室、ふれあいスポーツフェスタ、監督が怒ってはいけない大会 in 福岡大学など多くの事業が行なわれました。FU スポまちコンソーシアムが今後も継続的に自走できる組織にするため、一般社団法人FUスポーツコミュニティの設立を進めています。地域支援および地域連携イベント事業では、「新体力テスト」「スロージョギング支援」、那珂川市との運動支援が実施されました。アクション福岡との連携では、プールを借用して、アクアスポーツ実習のダイビング実習を行ないました。また、スケート実習ではスケートリンクを利用して実習を行ないました。福岡県教育委員会との連携では、教育実習事前・事後指導、教職演習Ⅰ・Ⅱにおいて、外部講師による特別講義を7回実施しました。市民カレッジ講座では、後期に「キッズ・サッカー」「女性のための元気体操」が行なわれました。このようにスポーツ振興・地域連携・社会貢献推進委員会では、数多くの多彩な活動を行ないました。
- 3 広報委員会では、昨年に引き続き学部HPに年報、エキスパートの報告書などを電子冊子として掲載するなど定着しています。学部HPに「動画で見るスポ科」というサイトを追加し、実習報告レポートと動画も掲載しました。
- 4 教員合格率向上委員会では、教員採用試験1次合格者は16名で、そのうち9名（小学校

2名を含む)が2次試験合格し、年々増加の傾向にあります。保健体育教員採用試験のための自習室の活用、勉強会の開催、模擬試験などの支援活動を行なっています。

- 5 共通教育対策委員会では、前後期ともアクアとスキーを除き、対面授業を適切に行なうことができました。受講者には、昨年作成した電子テキストの購入を促しましたが、全員購入するまでには至りませんでした。専任教員による保健体育科目担当率が増加しました。今年度は、共通教育全体のDP・CP・カリキュラムマップが作成され、生涯スポーツ演習および生涯スポーツ論のシラバスを改定しました。
- 6 診療所・トレーナー活動推進委員会では、UNIVAS AWARD「安全確保に関する優秀取組賞」にて4年連続入賞し、今年度は最優秀賞を受賞しました。
- 7 学部教育充実推進委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響で、一部のプログラムが実施されなかったものの、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」では、例年と同様の成果を収めています。
- 8 学部と大学院の連携推進委員会では、フレッシュマンセミナーを利用して、大学院説明会と大学院紹介動画などで学部生へのアピールを行ないました。また、出張講義、オープンキャンパスや父母懇談会などにおいても大学院紹介動画を用いて大学院進学のアピールを行ないました。
- 9 日本体育・スポーツ・健康学会実行委員会では、大会実行委員会を発足し、各役員を決定するとともに準備をスタートしました。

大学院 スポーツ健康科学研究科においては、2020、2021年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、2022年度も9回目を迎える予定であった釜山大学との大学院国際学術交流は中止となりました。一方、2022年度から2専修科目、2023年度からも1専修科目をさらに増設することで、大学院の活性化を図っています。また、2020年度から新たに立ち上げたスポーツ健康科学研究科ホームページに2021年度からは、よりビジュアルに訴えかけた紹介動画を新たに作成し、大学院における活動状況を学内外に精力的に発信しています。また、2022年度は飛び級対象者の出願に合わせるように大学院説明会を行い、大学院早期履修対象者への個別の案内も行っています。その効果もあってか、僅かではあるが飛び級・早期履修の問い合わせや申請が増えている印象を受けています。

2021年度にはマラ工科大学との部局間協定のセレモニーを行い、正式に部局間協定を締結した。したがって、2022年4月1日から福岡大学とマラ工科大学との部局間協定が開始となり、学生および教員レベルで積極的に相互交流を進めていきたい。

「新型コロナウイルス」流行も収束傾向であり、2023年3月19日の卒業式は3年ぶりに本人および関係者が参席する式典となり、盛大に行われました。スポーツ科学部に関しては、例年通り第二記念会堂で学位記授与式を実施しました。また、大学院スポーツ健康科学研究科においては、博士過程前期の大学院生は2022年3月19日に1222教室において修士の学位記授与が行われました。

一方、人事に関して、講師以上の採用はありませんが、新助教5名、新助手2名を含めて、専任教員(講師以上)31名、特任教授1名、助教・助手26名、教育技術職員4名、事務職員4名で学生教育に取り組んでいます。令和4年度からは事務組織が改編され、スポーツ科学部を含む

理系4学部（理学部、工学部、薬学学部）は教務三課の所属になりました。事務組織のスリム化と効率化が行われましたが、学生教育やサービスに停滞がないように取り組んでいます。

本学では、1996年（平成8年）から大学基準協会の「大学評価マニュアル」に基づき、自己点検・評価を開始しました。その後、自己点検・評価の実施と結果公表の義務化に伴い2000年度（平成12年度）に第1回は、2回目の自己点検・評価を行いました。2004年（平成16年）からは第三者機関（認証評価機関）による認証評価を7年に1度受けることが義務付けられ、本学では2007年度（平成19年度）に第1期認証評価、2014年度（平成26年度）に第2期認証評価を受け、“大学基準協会に適合”との認証評価を受けました。2015年度（平成27年度）からは毎年自己点検・評価を行うことになり、2022年度（令和4年度）は、第3期認証評価を受け、大学評価結果（委員会案）では、高い評価を受けました。

1 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー

(1) スポーツ科学部

●人材養成の目的

スポーツ科学部は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

○アドミッション・ポリシー

スポーツ科学部は人材養成の目的を達成するために、

1. スポーツを日常的に実践している人
2. スポーツや身体運動を対象に積極的に科学しようとする人
3. 競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上を目指す人
4. 体育教員、スポーツコーチ、インストラクター、健康運動指導士などスポーツや健康全般にかかわる職種を目指そうとする人

の入学を求めています。

○カリキュラム・ポリシー

スポーツ科学部のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む推奨コースを設定しています。さらに、実技科目や演習科目は、理論と実践を統合した教育を体系的に行うために、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。

スポーツ科学科は、自らが専門とするスポーツ種目の技能およびスポーツ全般にわたる科学的指導能力の向上を、また健康運動科学科は、健康運動・レクリエーションの科学的基礎知識に基づく実践・指導能力の習得をそれぞれねらいとし、各学科の特性にあったカリキュラムを編成しています。

○ディプロマ・ポリシー

スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. スポーツや運動全般の科学的指導能力を備えている。
2. 専門とするスポーツ・運動の高い技能と指導能力を備えている。
3. スポーツ・運動の医科学的知識に基づく卒業論文作成能力を備えている。
4. スポーツ・運動を通じて得られた社会や職業活動に必要なコミュニケーション能力、課題解決力、倫理的思考力を備えている。
5. 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を身につけている。

■ スポーツ科学科 学位（教育）プログラム名：スポーツ科学

●人材養成の目的

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

スポーツ科学科 三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

◆養成する人材像・教育課程の特色

スポーツ科学科は、競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、スポーツ・運動に関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。自身の競技力向上とアスリートやコーチを目指すためのアスリート・コーチコース、アスリートのサポートを担うためのトレーナーコース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応したスポーツ科学の在り方を探求しています。

◆求める人材像（求める能力）

- ・ **知識・理解** 競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ **技能** 競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人
- ・ **態度・志向性** スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ **その他能力・資質** 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

◆入学者選抜のねらい

スポーツ科学科では、競技スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、競技力向上を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって、学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができる

ように、一部選抜制を含む 4 つの推奨コース（アスリート・コーチコース、トレーナーコース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群およびコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

スポーツ・運動の理論と実践を統合した教育を体系的に行うため、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。実技科目については、自らが専門とするスポーツ種目を学べるように、選択必修の実技科目を多く配置しています。そして、「スポーツ実習Ⅱ」や「コーチ法演習」などの科目では、専門とするスポーツ種目のコーチング理論を深めるとともに、リーダーシップ・コミュニケーション能力および倫理的思考力の育成も行っています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 スポーツ・運動の医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 専門とするスポーツの技術構造について理解し、説明できる。
- A-3 専門とするスポーツの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 専門とするスポーツの技術を習得し、競技等の場面において発揮することができる。
- B-2 専門とするスポーツの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 スポーツ・運動を通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 スポーツ・運動を通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 スポーツ科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 スポーツ・運動について自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 スポーツ・運動を論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 スポーツ・運動を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 スポーツ・運動についてマネジメント等に取り組む意欲を持っている

■ 健康運動科学科 学位（教育）プログラム名：健康運動科学

●人材養成の目的

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

❖養成する人材像・教育課程の特色

健康運動科学科は、心身の健康の回復や保持増進を目指した医科学分野の知識を有し、創造的・実践的な指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、健康運動・レクリエーションに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した3つのコースを用意しています。健康運動関連資格取得を目指す健康運動指導者コース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応した健康運動科学の在り方を探求しています。

❖求める人材像（求める能力）

- ・ **知識・理解** 生涯スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ **技能** 生涯スポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人
- ・ **態度・志向性** スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ **その他能力・資質** 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

❖入学者選抜のねらい

健康運動科学科では、生涯スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、健康の回復や保持増進を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む3つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 健康運動・レクリエーションの医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 健康運動・レクリエーションの技術について理解し、説明できる。
- A-3 健康運動・レクリエーションの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 健康運動・レクリエーションの技術を習得し、運動指導等の場面において発揮することができる。
- B-2 健康運動・レクリエーションの技術や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 健康運動・レクリエーションを通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 健康運動・レクリエーションを通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 健康運動科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 健康運動・レクリエーションについて、自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 健康運動・レクリエーションを論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 健康運動・レクリエーションの技術を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 健康運動・レクリエーションについてマネジメント等に取り組む意欲を持っている。

(2) スポーツ健康科学研究科

●人材養成の目的および教育研究上の目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象とする学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に向けて貢献し、高度なスポーツ知を拓く研究科として機能することを教育理念とする。博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基に、体育・スポーツ・健康・レクリエーションに関する科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行う。博士課程後期では、健康増進や疾病・傷害の治療・予防・再発防止を目的とした運動プログラムの開発・実践に関する研究や、幼少期から高齢期に至るライフステージに応じたスポーツパフォーマンスの向上を目的とした研究などの専門的な領域について自立して研究活動を行い得る研究者を養成する。

| 三つの方針（三つのポリシー） | | |
|--|--|--|
| 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) | 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) | 学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー) |
| <博士課程前期> | | |
| <p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p> | <p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。</p> | <p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。</p> |
| <p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 ① 自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる (DP1) ② 自らの研究課題に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる (DP2) ③ 自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる (DP3) ④ スポーツ健康科学分野の指導現場において必要とされる科学的根拠について説明することができる (DP4)</p> <p>【到達指標】 ① 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位を修得している (DP1, 2, 3, 4) ② 修士論文の中間発表会で発表している (DP1, 2, 3, 4) ③ 修士論文の審査に合格している (DP1, 2, 3, 4) ④ 修士論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できる (DP1, 2, 3, 4) ⑤ 修士論文発表会で、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP4) ⑥ 国内外の学術雑誌に論文を发表している (DP1, 2, 3, 4) ⑦ 国内外の学会・研究会で発表している (DP1, 2, 3, 4)</p> | <p>【教育課程の編成】 ① 各自の専門性を高める ② リサーチワークとコースワークを組み合わせる ③ 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ① 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 ② 周辺領域の幅広い知識の獲得を意図した非専修科目を設置する ③ 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する ④ スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ① 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP1, 2, 3, 4) ② ループリック個別評価表において評価する (DP1, 2, 3, 4) ③ 修士論文中間発表会において評価する (DP1, 2, 3, 4) ④ 修士論文において評価する (DP1, 2, 3, 4) ⑤ 修士論文発表会において評価する (DP1, 2, 3, 4) ⑥ 修士論文資料において評価する (DP1, 2, 3, 4)</p> | <p>【求める学生像】 博士課程前期では、指導現場において科学的指導を実践・応用できる人材を育成するという観点から、 1) スポーツや運動を科学的観点から研究することに興味のある人 2) 競技スポーツのパフォーマンスを向上させるための科学的な方法に興味のある人 3) 教育現場で、より高度な科学的成果を取り入れようとしている人 4) 医療現場で、運動による健康の維持や疾病の予防を図ろうとしている人の入学を求めている。</p> |
| <p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ① スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している (DP5) ② スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先導的指導を実践・応用する能力を有している (DP6)</p> <p>【到達指標】 ① 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位を修得している (DP5, 6) ② 修士論文の中間発表会で発表している (DP5, 6) ③ 修士論文の審査に合格している (DP5, 6) ④ 修士論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できる (DP5) ⑤ 修士論文発表会で、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP6)</p> | <p>【教育課程の編成】 ① 各自の専門性を高める ② リサーチワークとコースワークを組み合わせる ③ 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ① 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 ② 周辺領域の幅広い知識の獲得を意図した非専修科目を設置する ③ 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する ④ スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ① 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP5, 6) ② ループリック個別評価表において評価する (DP5, 6) ③ 修士論文中間発表会において評価する (DP5, 6) ④ 修士論文において評価する (DP5, 6) ⑤ 修士論文発表会において評価する (DP5, 6) ⑥ 修士論文資料において評価する (DP5, 6)</p> | <p>【入学者選抜の在り方】 学生の受け入れにあたっては、一般入学試験に加え、推薦入学試験、社会人入学試験、外国人留学生試験、アスリート推薦入学試験、飛び級入学試験を実施し、大学院における学業・研究の遂行に必要な専門的知識、論理的で柔軟な思考力、ならびに学業・研究に対する強い意欲を有しているかを重視して選抜を行う。アドミッション・ポリシーに合致した入学者を選抜できたか否かについては、単位修得状況で評価する。</p> |
| <p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ① 自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している (DP7) ② スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先導的指導を実践・応用する姿勢や意欲を有している (DP8) ③ 自らの研究や指導成果を国内外に広く発信する姿勢や意欲を有している (DP9)</p> <p>【到達指標】 ① 大学入学を希望するセミナーに参加している (DP7) ② 修士論文の中間発表会で発表している (DP7, 8) ③ 修士論文の審査に合格している (DP7, 8) ④ 修士論文において、自らの研究課題や指導現場にどのように実践・応用できるかを説明できる (DP8) ⑤ 修士論文発表会において、自らの研究課題を指導現場にどのように実践・応用できるかを説明できる (DP9) ⑥ 国内外の学術雑誌に論文を发表している (DP7) ⑦ 国内外の学会・研究会で発表している (DP7)</p> | <p>【教育課程の編成】 ① 各自の専門性を高める ② リサーチワークとコースワークを組み合わせる ③ 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ① 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 ② 周辺領域の幅広い知識の獲得を意図した非専修科目を設置する ③ 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する ④ スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ① 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP7, 8, 9) ② ループリック個別評価表において評価する (DP7, 8, 9) ③ 修士論文中間発表会において評価する (DP7, 8) ④ 修士論文において評価する (DP7, 8) ⑤ 修士論文発表会において評価する (DP7, 8) ⑥ 修士論文資料において評価する (DP7, 8)</p> | |

| 三つの方針（三つのポリシー） | | |
|--|--|--|
| 学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー） | 教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー） | 学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー） |
| ＜博士課程後期＞ | | |
| <p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p> | | |
| <p>知識・理解</p> | <p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 斬新かつ独創的な研究課題を設定することができる (DP1) 2) 自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる (DP2) 3) 自らの研究課題に直接的に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる (DP3) 4) 自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる (DP4) 5) スポーツ健康科学の発展に貢献する有益かつ新しい知見を提出することができる (DP5) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP1, 2, 3) 2) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP1, 2, 3) 3) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP1, 2, 3, 4, 5) 4) 論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できるとともに、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP1, 2, 3, 4, 5) 5) 2編以上の原著論文を発表している (DP1, 3, 4, 5) 6) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP1, 3, 4, 5) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP1, 3, 4, 5) | <p>【求める学生像】</p> <p>博士課程後期では、高等教育機関あるいは研究機関において独立して研究できる人材を育成するという観点から、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的な学力ならびに創造的で柔軟な発想を持ち、研究を粘り強く遂行できる人 2) 博士課程前期における研究成果に満足せず、研究を継続することを望む人 3) 医療や健康増進に強い熱意がある人 4) 自分の研究成果を広く国外に発信したい人 5) スポーツ・体育分野の出身者以外にもスポーツや健康を科学的に研究することに興味のある人の入学を求めている。そのため、体育・スポーツ関連学部卒業生のみならず、広範囲からの領域の学生受け入れを目指している。特に、社会人や外国人は積極的に受け入れる。 |
| <p>技能</p> | <p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している (DP6) 2) スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力を有している (DP7) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP6, 7) 2) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP6, 7) 3) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP6, 7) 4) 論文発表会で発表している (DP6, 7) 5) 2編以上の原著論文を発表している (DP6, 7) 6) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP6, 7) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP6, 7) | <p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>学生の受け入れにあたっては、一般入学試験に加え、社会人入学試験、外国人留学生試験を実施し、大学院における学業・研究の遂行に必要な専門的知識、論理的で柔軟な思考力、ならびに学業・研究に対する強い意欲を有しているかを重視して選抜を行う。特に、研究計画の新規性・実現性を評価し、将来的に研究者として自立して研究活動を遂行するための資質を有しているかを重視して選抜を行う。</p> |
| <p>態度・志向性</p> | <p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している (DP8) 2) 自らの研究成果を国内外に広く発信する姿勢と意欲を有している (DP9) 3) スポーツ健康科学分野の研究者として、自立して研究活動を行う姿勢と意欲を有している (DP10) 4) 自らの研究成果を、スポーツ健康科学分野における先進的指導実践のために応用する姿勢や意欲を有している (DP11) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院学生倫理セミナーに参加している (DP8, 9, 10, 11) 2) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP8, 10, 11) 3) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP8, 10, 11) 4) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP8, 9, 10, 11) 5) 論文発表会で発表している (DP8, 9, 10, 11) 6) 2編以上の原著論文を発表している (DP8, 9, 10) 7) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP8, 9, 10) 8) 国内外の学会・研究会で発表している (DP8, 9, 10) 9) 博士論文や論文発表会において、自らの研究課題を指導現場にどのように実践・応用できるか説明できる (DP11) | <p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高める 2) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指す <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高めるために、「特別研究」を設置する。 2) 関連領域の知識獲得を意図して、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目を設置する 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指して、「スポーツ健康科学研究法」を設置する <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ健康科学研究法の成績で評価する (DP8, 10, 11) 2) 研究計画書において評価する (DP8, 10, 11) 3) 研究計画書の審査会において評価する (DP8, 10, 11) 4) 博士論文において評価する (DP8, 9, 10, 11) 5) 博士論文の審査会において評価する (DP8, 9, 10, 11) 6) 論文発表会において評価する (DP8, 9, 10, 11) |

2 2022年度 活動年譜

| 2022年 | | 【学部】 | 【研究科】 | |
|-------|---------|--------------------------------|----------------------|---------|
| 4月 | 1日 | 入学式 | 入学式・新入生ガイダンス | |
| | 2日 | 新入生ガイダンス | | |
| | 6日 | 新入生懇談会 | | |
| | | 初回クラス面談 (1年次) | | |
| | 11日 | 前期授業開始 | | 前期授業開始 |
| 5～6月 | | 前期修学指導 | | |
| | 9～27日 | 前期クラス面談 (2年次) | | |
| 6～7月 | | 父母懇談会 (本学・各地) | | |
| 6月 | 1～8月5日 | ゴルフ実習 | | |
| 7月 | 上旬～ | 前期授業アンケート FURIKA | 推薦入試 | |
| | 2日 | | | |
| | 4～20日 | 前期クラス面談 (1年次) | | |
| | 21日 | 前期授業終了 | | |
| | 22～30日 | 前期定期試験 | | |
| | 28日 | | | 前期授業終了 |
| | 30日 | | | 修論中間報告会 |
| 8月 | 1～4日 | キャンプ実習 (Ⅱ) | 修論中間報告会 オープンキャンパス | |
| | 1～5日 | 集中講義 (前) | | |
| | 4日 | 夏季休業開始 | | |
| | 7日 (遠隔) | | | |
| | 6日 | オープンキャンパス | | |
| | 22～25日 | キャンプ実習 (前段) | | |
| 9月 | 2日 | | 秋季大学院入試 | |
| | 5～8日 | キャンプ実習 (後段) アクアスポーツ実習 (プール) | | |
| | 5～9日 | 集中講義 (後) | | |
| | 11～15日 | アクアスポーツ実習 (海浜) | | |
| | 13日 | 夏季休業終了 | | |
| | 14日 | 後期授業開始 | 後期授業開始 | |
| | 24日 | 前期卒業式 | 学位記授与式 (修士) | |

| | | | |
|-----|---|--|------------|
| 9月 | 28日 | 後期クラス面談 (1年次) 総合型選抜一次選考 | |
| 10月 | 6日 11日 17~31日 | 総合型選抜二次選考 後期クラス面談 (2年次) | 学位授与式 (博士) |
| 11月 | 24~25日 | 学校推薦型選抜 A 方式入試 | |
| 12月 | 10日 中旬~ 28日 (ハイブリッド) (中止) 27日 | ステップアッププログラム 先輩と語る -大学と社会- 学部祭 後期授業アンケート FURIKA 卒業論文発表会 謝恩会 冬季休業開始 | 冬季休業開始 |

| 2023年 | | 【学部】 | 【研究科】 |
|-------|--|--|------------------------------------|
| 1月 | 4日 5日 16日 13日 (遠隔) 14・15日 23日 17~26日 27~31日 29~2月2日 31~2月3日 31~2月3日 (遠隔) | 冬季休業終了 後期授業再開 後期授業終了 FD ワークショップ 共通テスト 後期定期試験 時間割編成会議 スキー実習 (前段) スケート実習 キャンプ実習 (スキー実習代替) | 冬季休業終了 後期授業再開 後期授業終了 |
| 2月 | 2日~ 3日~ 7日~ 7日 9日 (遠隔) 13日 13~17日 14~18日 18日 | 一般入試・系統別 一般入試・前期日程 一般入試・GS 実技 シラバスチェック スキー実習 (中段) スキー実習 (後段) | 修士論文発表会・公聴会 春季入試 春季大学院入試 |
| 3月 | 7日 | 一般入試・後期日程 | |

| | | | |
|----|-----|-----------|----------------|
| 3月 | 16日 | | 学位記授与式(博士) |
| | 19日 | 卒業式 | 卒業式・学位記授与式(修士) |
| | 22日 | 在学生履修登録開始 | |
| | 28日 | | 在学生履修登録開始 |
| | 29日 | 在学生履修登録終了 | |
| | 31日 | | 在学生履修登録終了 |

3 教員組織 (2022年度)

スポーツ科学部長 米 沢 利 広

| | | |
|-------|---------|--------------------------|
| 教 授 | 青 柳 領 | (幼児発育発達・スポーツ計量論) |
| | 乾 真 寛 | (コーチ学・サッカー) |
| | 上 原 吉 就 | (スポーツ内科学・スポーツ医学・予防医学) |
| | 柿 本 真 弓 | (コーチ学・ダンス・体操・新体操競技) |
| | 柿 山 哲 治 | (スポーツ教育学・保健体育科教育学) |
| | 片 峯 隆 | (コーチ学・運動学・バイオメカニクス・陸上競技) |
| | 川 中 健太郎 | (スポーツ栄養学・生化学・分子運動栄養学) |
| | 小牟礼 育 夫 | (スポーツ方法学・バスケットボール) |
| | 重 森 裕 | (スポーツ医学・脳神経外科学・救急医学) |
| | 下 園 博 信 | (スポーツ心理学・スポーツ方法学・ラグビー) |
| | 田 口 晴 康 | (スポーツ運動学・体操競技・器械運動) |
| | 田 中 守 | (体力学・トレーニング学・生理学・ハンドボール) |
| | 築 山 泰 典 | (野外教育学・レクリエーション) |
| | 布 目 寛 幸 | (バイオメカニクス) |
| | 檜 垣 靖 樹 | (スポーツ生理学・健康運動学・予防医学) |
| | 藤 井 雅 人 | (スポーツ社会学・スポーツ教育学) |
| | 村 上 純 | (スポーツ方法学・コーチ学・ラグビー) |
| | 森 口 哲 史 | (公衆衛生学・鍼灸医学・ハンドボール) |
| | 山 口 幸 生 | (運動心理学・行動科学・テニス) |
| | 吉 村 一 朗 | (スポーツ整形外科学・解剖生理学) |
| | 米 沢 利 広 | (スポーツ方法学・バレーボール) |
| 特任 教授 | 梅 田 保 人 | (保健体育科教育学) |
| 准 教 授 | 今 村 律 子 | (保健体育科教育学・コミュニケーション論) |
| | 坂 本 道 人 | (コーチ学・柔道) |
| | 田 場 昭一郎 | (コーチ学・競泳) |
| | 長 島 和 幸 | (体育哲学・スポーツ史・レスリング) |
| | 野 口 安 忠 | (コーチ学・スポーツ方法学・陸上競技) |
| | 信 岡 沙希重 | (コーチ学・陸上競技) |
| | 道 下 竜 馬 | (スポーツ生理学・健康運動学) |
| 講 師 | 神 田 智 浩 | (コーチ学・スポーツ方法学・剣道) |
| | 霜 島 広 樹 | (スポーツ経営管理学・スポーツ産業論) |
| | 渡 邊 正 和 | (バイオメカニクス・コーチ学・硬式野球) |

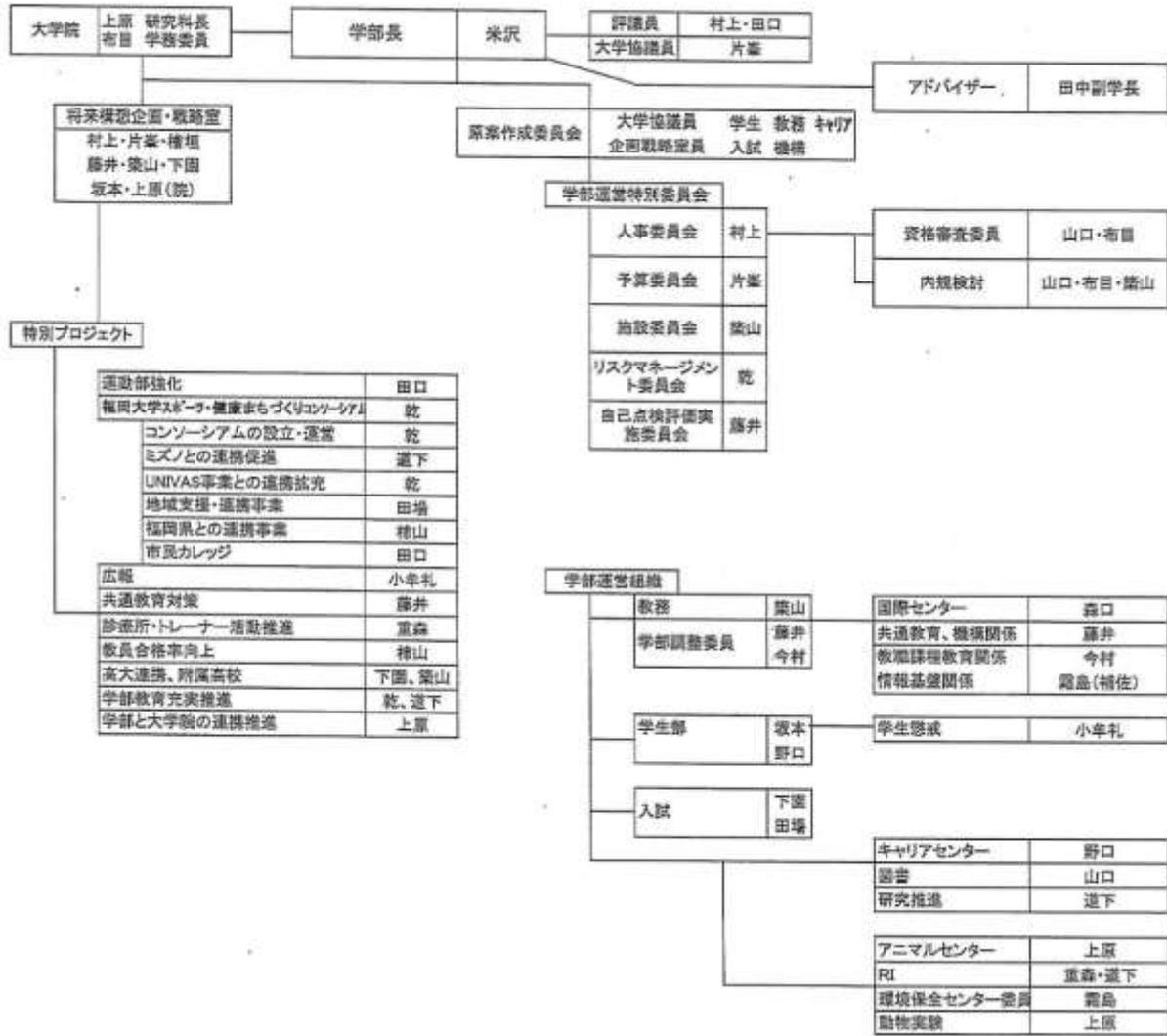
| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|----|---|---|---|---|---|---|
| 助 | 教 | 伊 | 藤 | 奨 | | 助 | 手 | 大 | 関 | 采 | |
| | | 岩 | 崎 | 領 | | | | 金 | 川 | 悠 | 太 |
| | | 大 | 坪 | 俊 | 矢 | | | 神 | 田 | 菜 | 摘 |
| | | 小 | 笠 | 希 | 将 | | | 黒 | 石 | 武 | |
| | | 川 | 上 | 翔 | 太郎 | | | 古 | 賀 | 恵 | |
| | | 川 | 崎 | 百合 | 香 | | | 座 | 波 | 吉 | 子 |
| | | 木 | 戸 | 康 | 平 | | | 城 | 間 | 春 | 香 |
| | | 木 | 浪 | 龍 | 太郎 | | | 前 | 川 | 省 | 吾 |
| | | 古 | 瀬 | 裕 | 次郎 | | | 村 | 田 | 優 | 作 |
| | | 小 | 嶋 | 廉 | 生 | | | 村 | 山 | 仁 | 允 |
| | | 呉 | 屋 | 良 | 真 | | | | | | |
| | | 高 | 柳 | 昂 | 平 | | | | | | |
| | | 長 | 嶺 | 健 | | | | | | | |
| | | 村 | 川 | 誠 | | | | | | | |
| | | 山 | 本 | 泰 | 暉 | | | | | | |
| | | 吉 | 田 | 一 | 也 | | | | | | |

大学院スポーツ健康科学研究科 担当教員 (2022 年度)

スポーツ健康科学研究科長 上原吉就

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----|
| 教 | 授 | 青 | 柳 | | 領 | 教 | 授 | 藤 | 井 | 雅 | 人 |
| | | 上 | 原 | 吉 | 就 | | | 森 | 口 | 哲 | 史 |
| | | 柿 | 山 | 哲 | 治 | | | 山 | 口 | 幸 | 生 |
| | | 川 | 中 | 健 | 太郎 | | | 吉 | 村 | 一 | 朗 |
| | | 重 | 森 | | 裕 | 准 | 教 | 今 | 村 | 律 | 子 |
| | | 下 | 園 | 博 | 信 | 授 | | 道 | 下 | 竜 | 馬 |
| | | 田 | 口 | 晴 | 康 | 講 | 師 | 霜 | 島 | 広 | 樹 |
| | | 田 | 中 | | 守 | 助 | 教 | 大 | 坪 | 俊 | 也 |
| | | 築 | 山 | 泰 | 典 | | | 木 | 戸 | 康 | 平 |
| | | 布 | 目 | 寛 | 幸 | | | 古 | 瀬 | 裕 | 次郎 |
| | | 檜 | 垣 | 靖 | 樹 | | | | | | |

スポーツ科学部教員組織図(2022.4.1～2023.3.31)



4 入試状況、学生数及び卒業生数、出張講義

(1) スポーツ科学部

下園 博信

■ 推薦入試

A方式推薦入試（実技型・学力型）に関し、スポーツ科学科では、募集人員が64名で、実技型の志願者は114名、合格者が61名(競争率1.9倍)であった。学力型の志願者は24名で、合格者5名(競争率4.8倍)であった。また、健康運動科学科では、募集人員17名に対し、実技型の志願者は12名で合格者6名(競争率2.0倍)であった。学力型の志願者は22名で、合格者7名(競争率3.1倍)であった。両学科の競争率は実技型で1.9倍と2.0倍であり、募集人員の少ない健康運動科学において第2志望合格を継続実施している。

表1 学校推薦選抜入試状況

| 学科 | A方式推薦入試（実技型/学力型） | | | | |
|-------|------------------|--------|--------|--------|---------|
| | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 |
| スポーツ科 | 64 | 114/24 | 114/24 | 61/5 | 1.9/4.8 |
| 健康運動科 | 17 | 12/22 | 12/22 | 13*/8* | 2.0/3.1 |

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）*欄は第二志望合格者(8人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 総合型選抜入試、アスリート特別選抜入試

総合型選抜入試においては、スポーツ科学科に関して、募集人員32名に対し、志願者123名で合格者32名(競争率3.8倍)であった。また、健康運動科学科に関しては、募集人員5名に対し、志願者13名で合格者2名(競争率6.5倍)であった。また、健康運動科学科では第二志望合格3名を含むためスポーツ科学科に近い競争率となった。

次に、アスリート特別選抜入試に関しスポーツ科学科では、志願者52名に対し合格者45名(競争率1.2倍)、健康運動科学科では志願者5名に対し合格者5名(競争率1.0倍)、合計50名の合格者であった。アスリート特別選抜入試は、全学として89名の出願に対し82名の合格者であり、合格者に占める本学部への合格者の占める割合は60.9%であった。

表2 総合型選抜、アスリート特別選抜入試状況

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 合格者 | 競争率 | 募集人員 | 志願者 | 合格者 | 競争率 |
|-------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| スポーツ科 | 32 | 123 | 32 | 3.8 | 45 | 52 | 45 | 1.2 |
| 健康運動科 | 5 | 13 | *5 | 6.5 | 5 | 5 | 5 | 1.0 |
| 合計 | 37 | 136 | 37 | - | 50 | 57 | 50 | - |

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）*欄は第二志望合格者(3人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 一般入試

系統別日程では、スポーツ科学科が、募集人員 6 名に対し、受験者 105 名で合格者 28 名(競争率 3.8 倍)であった。また、健康運動科学科は、募集人員 3 名に対し、受験者 79 名で合格者 22 名(競争率 3.6 倍)であった。

前期日程では、スポーツ科学科は募集人員 50 名に対し、実技型においては受験者 184 名で合格者 76 名(競争率 2.4 倍)、小論文型においては受験者 74 名で合格者 24 名(競争率 3.1 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 20 名に対し、受験者 131 名で合格者 42 名(競争率 3.1 倍)であった。

後期日程では、スポーツ科学科が募集人員 5 名に対し、受験者 15 名で合格者 6 名(競争率 2.5 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 2 名に対し、受験者 5 名で合格者 2 名(競争率 2.5 倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅰ期では、スポーツ科学科が募集人員 7 名に対し、受験者 62 名で合格者 23 名(競争率 2.7 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 44 名で合格者 21 名(競争率 2.1 倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅱ期では、スポーツ科学科が募集人員 5 名に対し、受験者 55 名で合格者 16 名(競争率 3.4 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 36 名で合格者 7 名(競争率 5.1 倍)であった。

表 3 系統別日程状況

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 | 追加合格者 | 合格最高点 | 合格最低点 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| スポーツ科 | 6 | 107 | 105 | 28 | 3.8 | | 322 | 231 |
| 健康運動科 | 3 | 80 | 79 | 22 | 3.6 | | 320 | 228 |

表 4 前期日程状況

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 | 追加合格者 | 合格最高点 | 合格最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| スポーツ科 | 60 | 実技型 | | | | | | |
| | | 188 | 184 | 76 | 2.4 | | 244 | 170 |
| | | 小論文型 | | | | | | |
| | | 74 | 74 | 24 | 3.1 | | 225 | 177 |
| 健康運動科 | 23 | 137 | 135 | 50 | 2.7 | | 233 | 176 |

表 5 後期日程状況

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|
| スポーツ科 | 5 | 16 | 15 | 6 | 2.5 |
| 健康運動科 | 2 | 6 | 5 | 2 | 2.5 |

競争率=受験者÷合格者

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

表 6 共通テスト利用入試 I 期

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|
| スポーツ科 | 7 | 64 | 62 | 23 | 2.7 |
| 健康運動科 | 3 | 44 | 44 | 21 | 2.1 |

表 7 共通テスト利用入試 II 期

| 学科 | 募集人員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|
| スポーツ科 | 5 | 56 | 55 | 16 | 3.4 |
| 健康運動科 | 3 | 36 | 36 | 7 | 5.1 |

表 8 編・転・学士入試

| 学科 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 競争率 |
|-------|-----|-----|-----|-----|
| スポーツ科 | 1 | 0 | 0 | — |

競争率=受験者÷合格者

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 学生数及び卒業生数

表 9 学生数

(令和 5 年 3 月 1 日現在)

| | | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次以上 |
|---------|-------|------|------|------|--------|
| スポーツ科学科 | 911 | 223 | 229 | 220 | 239 |
| 健康運動科 | 283 | 73 | 72 | 65 | 73 |
| 合計 | 1,194 | 296 | 301 | 285 | 312 |

■ 出張講義

2022 年度入学センターより依頼があり実施した出張講義・模擬講義数は 34 件(生徒総数 1,249 名)と昨年度 22 件(生徒数 704 名)より増加した。増加の要因は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた対面式の出張講義の依頼によるところと考える。34 件のうち 3 件は、オンラインでの実施となり、学部教員の協力により実施することができた。出張講義ガイドブック「福岡大学模擬講義 NAVI」には、本学部教員 20 名も掲載されている。また、例年マリンメッセ福岡で開催されていた「夢ナビライブ」は、こちらもオンライン形式に変更され、837 名の生徒が講義動画を視聴している(総参加人数 43,473 人)。

■ 令和5年度実施入試状況

アスリート推薦入試

| | 志願者 | 受験者 | 合格者 |
|--------|-----|-----|-----|
| 博士課程前期 | 1 | 1 | 1 |

飛び級入試

| | 志願者 | 受験者 | 合格者 |
|--------|-----|-----|-----|
| 博士課程前期 | 1 | 1 | 1 |

一般入試

| | 秋季* | | | 春季* | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 志願者 | 受験者 | 合格者 |
| 博士課程前期 | 5(0) | 5(0) | 4(0) | 4(1) | 4(1) | 3(1) |
| 博士課程後期 | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 1(1) |

* () 内 社会人

外国人留学生入試

| | 秋季* | | | 春季* | | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 志願者 | 受験者 | 合格者 |
| 博士課程前期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 博士課程後期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

推薦入試**

| | 志願者 | 受験者 | 合格者 |
|--------|------|------|------|
| 博士課程前期 | 7(6) | 7(6) | 7(6) |

** () 内 早期履修者数、但し該当学生は合格後 入学辞退

■ 令和4年度 学生数及び修了生数

学生数

(令和4年5月1日現在)

| | | 1年次 | 2年次 (留年者含む) | 3年次 (留年者含む) |
|--------|----|-----|----------------|----------------|
| 博士課程前期 | 22 | 11 | 11 | 1 |
| 博士課程後期 | 10 | 6 | 2 | 2 |
| 合計 | 32 | 17 | 13 | 2 |

令和4年度については、博士課程前期修了9名が学位(修士号)を取得。博士課程後期修了者(博士号取得者)及び満期退学者は0名であった。

5 教育活動

(1) 入学前教育

下園 博信

令和5年度の総合型選抜入試、アスリート特別選抜入試、学校推薦型選抜入試の入学合格者に対して、外部業者と連携し、基礎国語5講、スポーツ科学入門7講の計12講からなる通信教育形式による入学前教育を実施している。受講した合格者の課題提出率（令和5年3月31日現在）は、94.7%であった。

基礎国語

- 1 講：PC時代に相応しい言葉力をつける・ノートを作る
- 2 講：ことばを自分のものにする(短文作り)
- 3 講：目の前のものを正確に描写する
- 4 講：自分を見つめる・他者を見つめる【実作1】
- 5 講：将来の夢について考える【実作2】

スポーツ科学入門基礎

- 1 講：「スポーツ科学」の研究領域
- 2 講：身体の構造と機能
- 3 講：フィットネス・トレーニング
- 4 講：スポーツのスキル
- 5 講：アスリートの身体管理
- 6 講：運動の効果とスポーツ損傷
- 7 講：データの処理

(2) 新入生懇談会

坂本 道人

新入生学部指導懇談会は、以下の内容を新入生に理解させ、活力ある学生生活となるための動機づけを行うものとして実施している。今年度においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮し、昨年同様午後から前後半に分けて開催した。

○主な内容

- 1) 福岡大学の校訓を理解し、充実した学生生活を送るための諸注意。
- 2) スポーツ科学部生としての自覚を促し、スポーツ活動に専心する心構えと勉学に励む態度を啓発する。
- 3) 各種委員からのガイダンスにより、学生生活を円滑に始められるようにする。

○2022年度スポーツ科学部新入生学部指導懇談会

1) 前半

<日 時> 令和4年4月6日(火曜日) 13:00~14:45

<場 所> 823教室

<方 法> 対面形式

<内 容> ①学部長あいさつ
②学生部ガイダンス(学生部委員:坂本)

2) 後半

<日 時> 令和4年4月6日(火曜日) 15:15~16:00

<場 所> 第二記念会堂体育館

<方 法> 対面形式

<内 容> ①学部教員紹介
②グループディスカッション

前半の部、後半の部ともにコロナ後3年ぶりに対面形式で実施した。

| |
|-----------------------|
| (3) クラス面談・修学指導 |
|-----------------------|

坂本 道人

■ クラス面談について

スポーツ科学部では、1・2年次生を対象にクラス別個人面談(グループディスカッション)を実施している。クラス別個人面談は、講師以上の専任教員が10~12名程度のクラスを担当し、定期的に学生の実態調査を行うもので、学生の生活状況や生活態度を把握するとともに、学生に対する注意喚起を行っている。大学生活を通じての授業、所属する運動部やサークル等の課外活動、アルバイト等の活動における問題点や悩みなどに対応し、個々にアドバイスできるような指導体制である。今年度も新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)感染拡大の影響に留意し、面談の方法については状況を考慮しながら担当教員の判断に任せるかたちでの実施となった。実施された面談については以下の通りである。

1) 新入生を対象とした個人面談(WEB・電話・メール・対面)

前期:4月6日(火)、7月4(月)~7月20日(金)

後期:9月28日(水)4限(14:40~16:10)フレッシュマンセミナー

2) 2年次生を対象とした個人面談(前後期に各1回)

前期:5月9日(月)~5月27日(金)

後期:10月3日(月)~10月21日(金)

1年次生は、学士課程の教育充実を図るために、基礎教育と導入教育を目的とした「フレッシュマンセミナー」が開講されており、その授業の1コマとして前後期に各1回ずつクラス面談を実施している。

2年次生は、継続的な指導として、1年次に担当した教員により引き続き個別指導が実施され、前・後期にクラス面談が行われる。

3年次生以降は、必修科目である卒業論文の事前指導として開講されている「スポーツ科学演習」を履修するため、各担当教員のゼミナールに所属し、その後、卒業までゼミナールの担当教員によって個別指導が行われる。

スポーツ科学部では、このような取り組みによって徹底した学生の指導体制を構築しており、学生も様々な立場にある教職員の助言・指導を受け、4年間の充実した学生生活が期待され、その成果は非常に大きい。

■ 修学指導について

スポーツ科学部は、前述した通り全学生を対象としたクラス別個人面談と修学指導対象の学生に対して面談を実施している。クラス面談に加えてさらに指導が必要な学生には、教務委員、学生部委員、入試委員、教務関係担当の教職員によって修学指導を実施している。また、令和3年度より、修学指導対象基準にGPAを取り入れている。対象となる学生は以下の通りである。

【修得単位数】

- 1) 2年次生：1年次の修得単位数が23単位以下の学生（登録単位数の半分以下の学生が対象）
- 2) 3年次生：2年次までの修得単位数が46単位以下の学生
- 3) 4年次生以降：3年次までの修得単位数が77単位以下の学生（卒業見込みなし）

【GPA】

- 1) GPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属する学生

面談については、今年度は、従来どおり、1221教室において対面で実施した。

内容については、修学指導記録書に「なぜ単位を取れなかったのか？」「今後の対応はどうするのか？」といった点を記録して学生の指導を行った。単位修得不振学生は、「授業の欠席が多いこと」「試験勉強が十分にできなかったこと」「試験そのものができなかったこと」などを理由に挙げている。1年次には、安易に単位が修得できると油断して単位を取得できなかった学生や、試験勉強の方法がわからないといった学生も散見された。このような点を踏まえて、試験勉強に対する助言・指導、授業への出席指導、今後の進路に対する助言・指導を行った。また、こういった修学指導（警告）が連続した場合には、修学支援新制度が廃止されることも併せて指導した。

学部・年次別の単位修得不振者の状況 (%)

(令和4年4月1日現在)

| | 令和4年度入学生 (22台) | 令和3年度入学生 (21台) | 令和2年度入学生 (20台) |
|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 修得単位 学部・学科 | 30単位以下 | 60単位以下 | 90単位以下 |
| スポーツ科学部 | 12.9 | 10.4 | 7.4 |

父母懇談会のしおりより一部抜粋

(4) フレッシュマンセミナー授業方法

築山 泰典・藤井 雅人

本セミナーは、学生自身が「如何に学び、社会に貢献するか」について自問自答ながら自学自習を実践し、スポーツ科学部生としての規範とスポーツ科学部で学ぶ専門領域を理解し、卒後の進路と目標を明確に示すことができるようになることを目的としている。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での3年目となるが、感染状況に応じながら対面での授業実施となった。また、事前に教務部と相談しながら823教室で1年間実施することが出来、余裕のある着座環境が提供できた。この時、授業内容は、1) 米沢学部長による「スポーツ科学部生として、理論と実践が融合した文武合一のすすめ」、2) コンピテンシー診断テスト、3) スポーツ科学部専任教員による専門性を生かした講義、4) スポーツ科学部全教員による1年次学生に対する個別の就学指導、などで構成されている。尚、今年度も、文章力講座、日本語力基礎調査そして言葉のカプログラムは実施できなかった。以下に、特筆すべき取り組みについて記載する。

コンピテンシー診断テストは、平成30年度以降、2年次後期必修科目「ステップアップセミナー」での同テストの実施に合わせる形で、リアセック社の「PROG コンピテンシーテスト」を学部予算により実施している。コンピテンシーとは、リアセック社によれば、「対課題基礎力」（課題発見力、計画立案力、実践力）、「対人基礎力」（親和力、協働力、統率力）、「対自己基礎力」（感情制御力、自信創出力、行動持続力）の3つのキー・コンピテンシー（およびその下位構成能力）から成る「自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力」を意味する。診断テストの結果については、各自の結果報告書による個人フィードバック、および訓練を受けたリアセック社の講師が行う授業での事後フォローアップ講座による全体フィードバックがなされる。その際、学生には、初年次生として大学生活を始めるにあたって、各個人が自分自身を客観的に理解し、今後その「強み」や「課題」についてどのように取り組んでいくのかをイメージしながら、付録の「ワークシート」を活用してコンピテンシー強化のための具体的な目標設定を行うように指導がなされている。令和4年度は、4月27日に筆記式のコンピテンシー診断テストが実施され、6月8日に各人へ結果報告書が返却されるとともに、全体に向けた事後フォローアップ講座が開催された。なお、コンピテンシー診断テストでは、令和2年度よりスポーツ科学部独自アンケート調査も併せて実施しており、学部として両者を関連させた分析に取り組み、学部主催FDワークショップなどで分析結果を報告している。

スポーツ科学部専任教員による講義は、今年度も、1年次必修講義科目を担当しない教員が主となる1コマ1名の構成にて対応した。フレッシュマンセミナーの目的として「スポーツ科学の専門性を理解する」を掲げており、学生が教員の専門性から学部を理解することを優先した結果でもある。例年、知財に関する講義内容を組み入れていたが、よりスポーツ場面に特化内容とするため、大学スポーツ協会 (UNIVAS) の紹介と肖像権も含めた知財に関する教育を乾教授に依頼した。

フレッシュマンセミナーでは、初年次教育として大学での受講態度も含めた「学び方を学ぶ」との側面を大切にしてきた。また、文章力講座や言葉の力プログラムは、学生同士のコミュニケーションなど密な人間関係により成立し教育効果を上げてきたが、次年度はアカデミックスキルとして新たに展開する計画である。

2022年度 1年次開講 スポーツ科学部フレッシュマンセミナー(前期)

前期

| | | | |
|-------|---|---------------------|----------------|
| 回数 | 1 (823) | 2 (823) | 本講座のねらい |
| 日付 | 4月13日 | 4月20日 | |
| 1年次全員 | ○米沢学部長：スポーツ科学部学生に望むこと ○上原研究科長：大学院紹介＋感染症予防指導 司会進行：築山＋フレッシュマンセミナーのねらい | ○山口先生 ＋日本語力テスト案内 | |

- ・高等学校までの“生徒”ではなく“学生”としての学び方・態度・行動を身に付ける
- ・スポーツ科学部生としての規範を身に付ける
- ・学生としての基本である“自学自習”を実践する
- ・スポーツ科学部教員の専門領域を理解する
- ・卒業後の進路およびも目標を明確にする
「如何に学び、社会に貢献するか」

| | | | | |
|-------|-------------------|-------------------------------------|---------|---------|
| 回数 | 3 (823) | 4 (823) | 5 (823) | 6 (823) |
| 日付 | 4月27日 | 5月11日 | 5月18日 | 5月25日 |
| 1年生全員 | ○藤井先生 ＋コンピテンシー | ○乾先生 ＋スポーツと知財 (UNIVAS との関連含む) | ○柿山先生 | ○今村先生 |

| | | | | |
|-------|---------|---------|---------|----------|
| 回数 | 7 (823) | 8 (823) | 9 (823) | 10 (823) |
| 日付 | 6月1日 | 6月8日 | 6月15日 | 6月22日 |
| 1年生全員 | ○布目先生 | ○青柳先生 | ○重森先生 | ○吉村先生 |

| | | | | |
|-------|----------|----------|----------|----------------------|
| 回数 | 11 (823) | 12 (823) | 13 (823) | 14 (823) |
| 日付 | 6月29日 | 7月6日 | 7月13日 | 7月20日 |
| 1年生全員 | ○檜垣先生 | ○道下先生 | ○下園先生 | ○森口先生 ＋夏季休暇中の安全教育 |

後期

| | | | | |
|-----------|--------------------|---------------------------|--------------|--------------|
| 回数 | 1 (教室は掲示板確認) | 2 (教室は掲示板確認) | 3 (教室は掲示板確認) | 4 (教室は掲示板確認) |
| 日付 | 9月21日 | 9月28日 | 10月6日 | 10月12日 |
| 1年次全 員 | 後期ガイダンス+講義 (築山) | クラス別個人面談 (第2記念会堂フロア集合) | ○川中先生 | ○柿本先生 |

| | | | | |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 回数 | 5 (教室は掲示板確認) | 6 (教室は掲示板確認) | 7 (教室は掲示板確認) | 8 (教室は掲示板確認) |
| 日付 | 10月19日 | 10月26日 | 11月2日 | 11月9日 |
| 1年次全 員 | ○田口先生 | ○片峯先生 | ○野口先生 | ○信岡先生 |

| | | | | |
|-----------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 回数 | 9 (教室は掲示板確認) | 10 (教室は掲示板確認) | 11 (教室は掲示板確認) | 12 (教室は掲示板確認) |
| 日付 | 11月16日 | 11月30日 | 12月7日 | 12月14日 |
| 1年次全 員 | ○小牟礼先生 | ○田場先生 | ○渡邊先生 | ○長島先生 |

| | | |
|-------|---------|-------------------|
| 回数 | 13 (未定) | 14 (未定) |
| 日付 | 12月21日 | 1月11日 |
| 1年生全員 | ○霜島先生 | ○神田先生 +授業アンケート |

1) 本講座の背景

2022年度の全国大卒求人倍率は、1.58倍（リクルートワークス研究所調べ）と、前年の1.50倍より0.08ポイント微増し、1.5倍台を維持する底堅い結果であった。コロナ禍による景況感の不透明さにより、中小・中堅企業で採用予定数が減少していたが、2022年度では本学に寄せられた求人数も17,388件と13.7%増加したことも1つの要因であると考えられる。

このような状況のなか、本学部の就職率は、男子100.0%（0.6%増）、女子98.8%（同）、全体99.6%（0.4%増）であった。全国的にコロナ禍による企業の採用計画縮小の影響が危惧される状況の中、本学部のキャリア教育については一応の成果が確認できたといえるのではないかと考えられる。しかしながら、今後も引き続き本学部が就職支援において目指すべきものは、現在の社会情勢を鑑み、起業側の打ちだす採用手段に対応し得る学生のスキル向上を目的とした授業内容の充実を図ることにあると考えられる。

2) 本講座のねらい

本講座の主たる目的は、部活動と就職活動の両立を求められる本学学部生に、就職活動とはどういったものか、今社会人として必要な能力は何か、運動部学生ならではの強みとは何かを理解させ、キャリア教育と学生生活の両面の充実を図ることにある。

内容については、公務員や、健康運動指導士、スポーツ関連企業、現役教員、現役内定取得者など本学学部生の特性や興味に沿った内容としている。近年、大学教育を通じたジェネリックスキル育成への期待が高まっている状況を受け、PROGテスト（株式会社リアセック）とその後のフォローアップセミナーの実施、さらに昨年度に引き続き、全国でも初の試みとなる大学スポーツ協会（UNIVAS）と正課内授業で連携し、「UNIVASデュアルキャリアプログラム」に取り組んでいる。これは、運動部学生のキャリア支援と学生生活の質向上を図る目的に、UNIVASとマイナビ（株）で共同開発されたものであり、本講座の目指すところと合致するため継続的な導入に至る。このように、学生一人一人の就職活動に対する興味を促し、この時期に何を考え、何を準備しておくべきかを考えさせることが本講座のねらいである。

3) 今年度の新たな取り組み

今年度のステップアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に細心の注意をはらい、対面形式で授業を実施した。授業形態は、受講生全員が同一教室による受講とした。内容については、昨年度と同様に、株式会社リアセック社のPROGテストによる自己診断をはじめ、現役教員やミズノ株式会社、金谷内科クリニックの心臓リハビリテーション指導士など様々な立場で活躍する学部卒業生に協力を仰ぎ、在学生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。加えて、昨年度に引き続き大学スポーツ協会（UNIVAS）ならびに株式会社マイナビで共同開発された「UNIVASデュアルキャリアプログラム」を講義内容に採用した。また、新型コロナウイルス感染症の流行以前まで実施していたSPI（一般常識力テスト）を再び取り入れ、授業を通じて

自身の現状を把握してもらう機会とした。

4) 成果と課題について

今年度の本講座に対する学生の授業コメントは以下のとおりである。

第2回（9月29日）キャリアセンター

今日のステップアップセミナーの授業では今からできることをコツコツすることが大切であると思いました。いろんなことにチャレンジして努力や工夫をして課題の克服し、また新たなことにチャレンジするというサイクルが大切であると思います。何事にもチャレンジしたり、初めてのことに取り組んでみたりすることは怖いものであるけれど、その恐れをなくして、自分の興味があることは片っ端からチャレンジして自分の可能性を広げていきたいと思います。（GS 女子）

第4回（10月13日）講師：前原雅樹氏（金谷内科クリニック）

今回の講義を聞いて、私自身も健康運動指導士の資格取得を目指しているため、取得できた際に私たちが活躍できる場を広げようと活動してくださっている方がいることに驚きを持ったし、そのことを自覚して行動していきたいと感じた。資格取得に満足せずに、将来自分がどうしていくかを考えながら行動し、自ら動けるようになりたい。（GH 男子）

第5回（10月20日）講師：花田研聖氏（県立田川科学技術高校）

今日の講義は教員を目指している自分自身にとって大変勉強になりました。大学の講義で学んでいることは将来教員になる上で大変役に立ちます。だから日々の講義を大切にして大学卒業した時にこれだけ学んだと胸をはれるような学生生活を送りたいと思います。自分自身の生活を見直すきっかけにもなりました。（GH 男子）

第6回（10月27日）講師：阿部雅人氏（株式会社ミズノ 営業統括部）

成績や技術だけでなく人から好かれる人間性であったり、仕事に一生懸命取り組む姿勢や挨拶ができる、コミュニケーションがとれるなどの当たり前の人間性が優れている人が社会から必要とされる人材だと学び、これからたくさんの人と関わってコミュニケーション能力をあげたいと思いました。（GH 女子）

第8～10回（11月10日～12月1日）講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

考えて計画的に行動することは落ち着いて行動することにつながってくると気がつくことができた。自主的に行動することもそうだが、行動した後のことを考えて行動すると今何をすべきかを知ることができると思った。（GS 女子）

以上が今年度の講義に対するコメントの抜粋である。どのコメントからも講義内容への興味・関心の高さが窺え、自身の今後に向けて考える良い機会であると感じ取ることができる。また、就職活動に対する意識調査において、「自身の就活活動に対して、どの程度意識していますか？」という質問に対し、“意識している” “少し意識している” と回答した学生は、授業前で77%、授業後で86%であった。この結果からみても、今年度より全プログラムを1教室の対面授業で実

施した状況において、一応の成果を得ることができたのではないかと考えられる。

学生を取り巻く就職状況は前述のとおり毎年大きく変化している。本講座においても、それらの変化に対する迅速な対応が求められている。本講座における今後の課題について、まずは、インターンシップ（就業体験プログラム）関係講座の積極的な導入が挙げられる。また、大学スポーツ協会（UNIVAS）との連携、キャリア支援（デュアルキャリアプログラム）の活用もより充実させていく必要があると考えられる。以上のことを次年度以降に向けた課題として、本講座の更なる充実を図っていきたいと考える。

最後に、今年度も本講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念を払拭できない状況でのスタートとなったが、多くの関係各位のご理解とご協力のお陰により、充実した講義内容・質を確保することができた。ご協力を賜った関係各位に心よりお礼申し上げます。

（6）授業用教材ツールの活用について

築山 泰典・今村 律子・岡部 奈央

スポーツ科学部の専門科目について、非常勤講師を除いた学部教員（講師以上）を対象に、「授業用教材ツールの調査」を行った。令和4年度は、原則対面形式で授業が実施され、出張等の場合で、授業2講義分を遠隔形式の実施も可能であった。

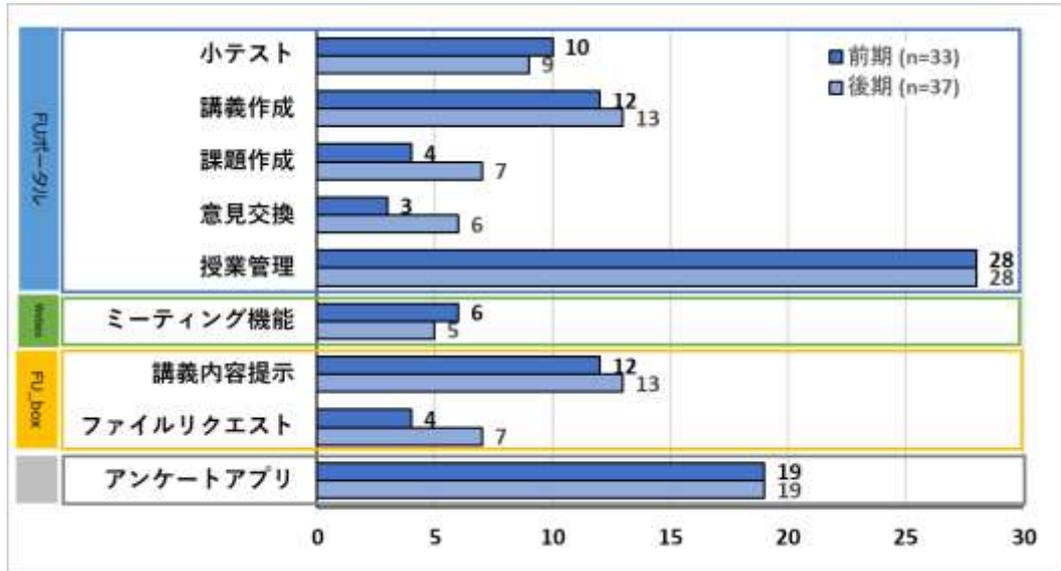
下記は、授業用教材ツールとして大学で提供されているシステムのうち、「授業用教材ツールについての調査」の結果である。授業用ツールとして、【FUポータル】—小テスト機能（前アンケート作成）、講義作成（講義内容の提示）、課題作成（課題提出機能）、意見交換（BBS 掲示板機能）、授業管理（連絡機能・cisメール自動送信も含む）、【Webex】—ミーティング機能、【FU_box】—講義内容提示（サイズ容量無制限）、ファイルリクエスト（課題提出機能）、Webアンケート機能ソフト（GoogleフォームやMicrosoft Office365のForms）について、各授業で使用した授業用ツールの使用について調査を行った。本年度の報告対象は、主担当者の科目で、182科目（内2科目閉講）の245コマ（1科目複数コマをカウント）を対象とした。

原則対面であったが、コロナ禍を経て、「授業管理」で連絡をすることが多くなり、対面形式となった現在も多くの授業で使用されている。また、講義内容の提示や課題提出に「FU_box」が活用され、アンケート機能アプリもFUポータルの小テスト機能に変わるツールとして使用されている。

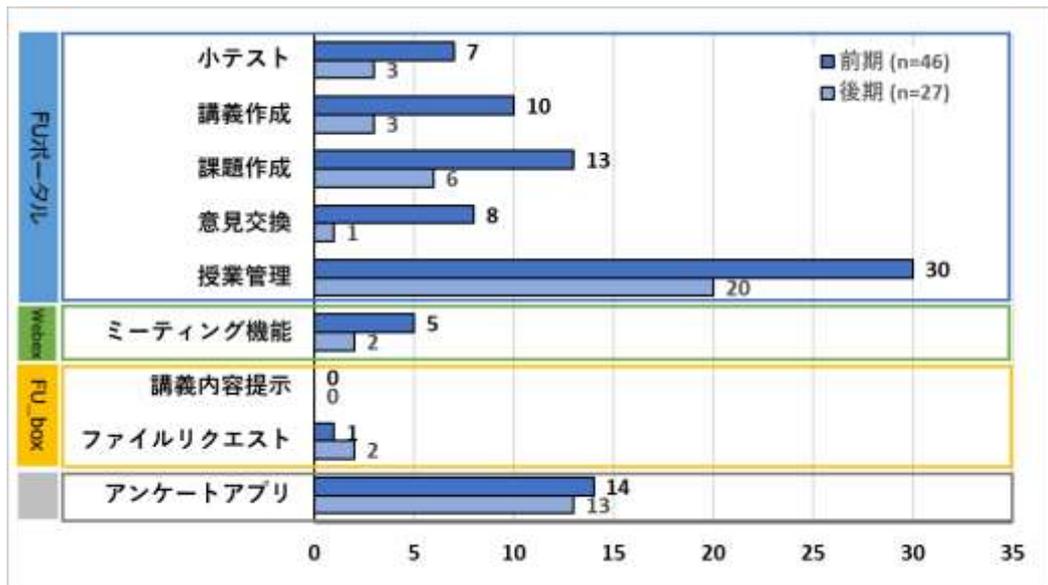
本年度は「コロナ陽性者」「濃厚接触者」への対応も引き続き行っており、該当者がいた場合は対応ツールとして「Webex」や「FU_box」の活用が報告された。

「授業用教材ツールの活用について」—授業区分別

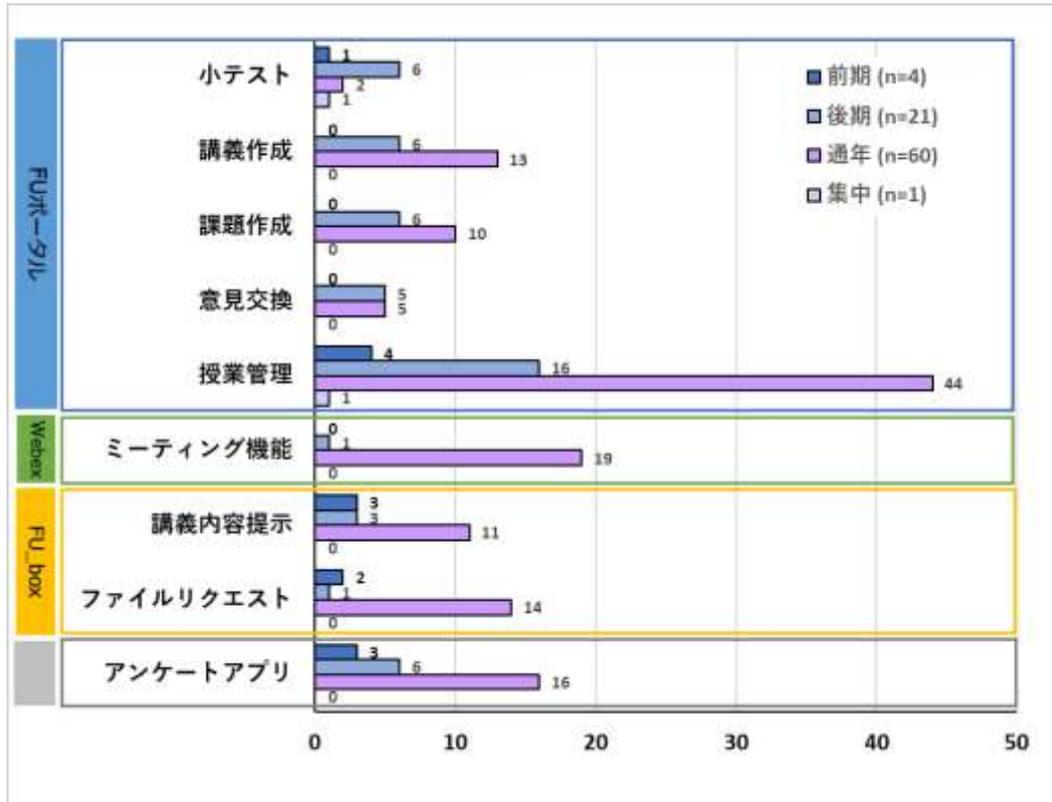
講義



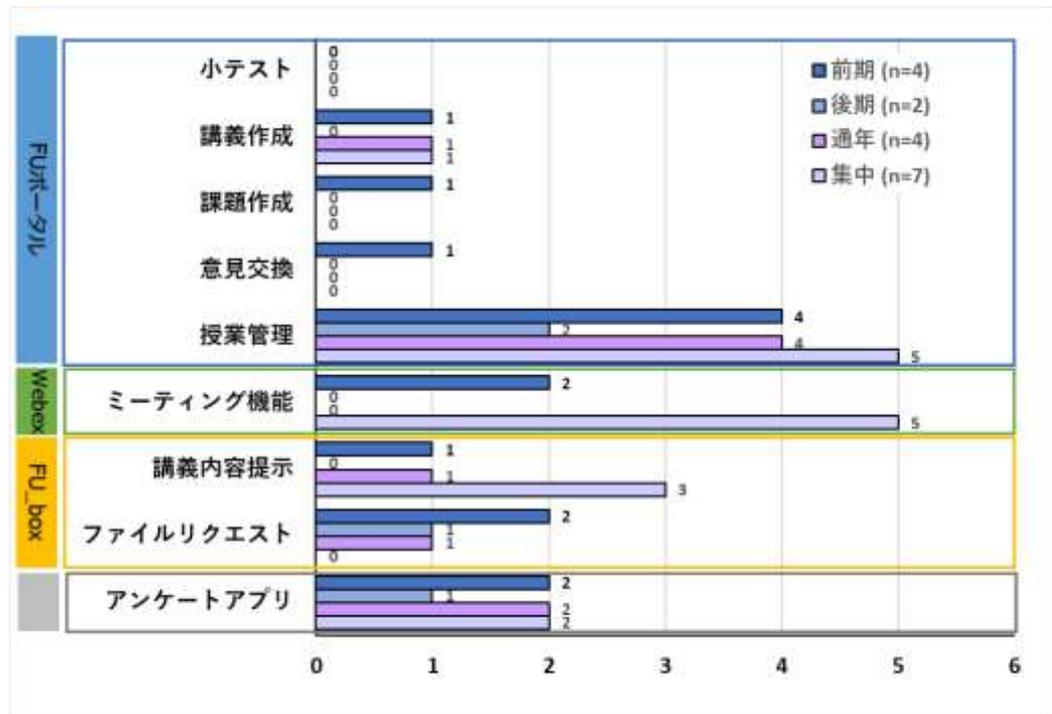
実技



演習



実習・実験



6 研究活動

(1) スポーツ科学部

道下 竜馬

■ 共同研究プロジェクト

- ・福岡大学とミズノ株式会社との連携・協力協定に基づき、その中心となるスポーツ科学部では、以下の研究プロジェクトが進行中であり、一部の成果が出ている。
「温熱と免疫に関する共同研究等」では、運動トレーニングによる筋温コントロールが、免疫機構にどのような影響を及ぼすか、その効果を検証している。
- ・ノッティンガム大学との共同研究では、動物実験からエネルギー摂取量とタンパク質摂取量の増加が筋タンパク質代謝に及ぼす影響について検証している。
- ・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所との共同研究では、プロ野球選手のエネルギー必要量および身体的特徴を解明し、運動パフォーマンスとどのように関連するのかについて検証している。

■ 福奏プロジェクト

福岡大学 研究ブランディング事業として行われてきた「福奏プロジェクト」は令和3年度で終了したが、プロジェクト終了後も福岡市内小学校の体育授業の支援事業、地域住民を対象としたヘルスツーリズム事業、福岡市、福岡県那珂川市、福岡県嘉麻市との包括協定による認知症予防事業を継続している。教員のみならず学生も一緒に参画することで、地域の健康持続社会の実現に貢献している。

(2) スポーツ健康科学研究科

道下 竜馬

スポーツ健康科学研究科博士課程前期では、8月に中間報告会を新型コロナウイルス感染症流行のために対面とWebexを用いたオンラインの同時開催で実施した。2月の修士論文発表会は、オンラインにて開催され、最終的には9名が最終試験に合格した。その中で中村泰志氏が、参加した教員の採点で最高点を獲得し、優秀発表賞を受賞した。なお、博士課程後期では、令和4年度の学位審査の対象者はいなかった。

大学院教員ならびに大学院生の活躍や社会貢献は、学部紀要のみならず大学公式ウェブサイトや大学院のホームページにも随時紹介し、社会や地域、企業に対して広く情報を発信している (<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/graduate/>)。

国際交流に関しては、釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流会が会場を隔年ごとに持ち回ることによって実施されている。令和4年度も新型コロナウイルス感染症流行のために残念ながら中止となった。

7 FD・SD 活動

(1) シラバス点検

藤井 雅人

スポーツ科学部では、毎年教務委員が中心となって、非常勤講師を含むスポーツ科学部専門教育科目担当教員から提出された次年度用の全シラバスの確認作業を行っており、2022年度で13年目を迎えることとなった。

令和5(2023)年度シラバスの確認作業は、2023年2月7日に、スポーツ科学科の確認作業担当者(森口哲史、今村律子、田場昭一郎、霜島広樹)、健康運動科学科の確認作業担当者(下園博信、山口幸生、長島和幸)、および確認作業担当者作成分確認者である築山泰典(学部教務委員)によって実施された。その際、シラバスチェック委員会作成の「2023年度シラバスチェックのポイント」である「FUプラスアップ授業に関する記述(スタートアップまたは中間ふりかえり)」「予習・復習の学習時間の明記(〇〇分)」「成績評価基準および方法の明記」「実務家教員の確認」「授業計画が適切か(回数等)」「複数教員で授業を担当する場合、授業計画に担当教員名の漏れがないかの確認」を中心に確認を行った。確認者がこれらのポイント等に関する不備を提出されたシラバスに記載したが、軽微な修正が多かったため、事務職員とも相談しながら事務室での一括修正作業で対応し、2月21日までに全ての確認作業を完了した。

こうした確認・修正の取り組みもあって、スポーツ科学部専門教育科目のシラバスは全体的に見て、「シラバス作成のためのガイドライン」に則って適切に記載された内容に統一された。

また、共通教育科目における保健体育科目のシラバスについても、共通教育センターの依頼を受けて、2023年2月7日までに、点検作業担当者である藤井雅人(共通教育研究センター長補佐)が確認作業を行った。その際に修正が必要と判断されたシラバスについては、科目担当者に2月24日までに修正の上、再提出するよう依頼した。再提出されたシラバスは3月7日にウェブ上で公開された。

大学院スポーツ健康科学研究科の「令和5年度 大学院シラバス記載内容に係るチェック作業」は、チェック作業担当者である川中健太郎および重森 裕、チェック作業担当者作成分確認者である布目寛幸(研究科学務委員)によって実施された。その際に記載に不十分な箇所があるとされたシラバスについては、必要に応じ当該作成者に記載内容の改善等の要望を行うなどした。その後再提出されたシラバスの修正箇所の確認を行い、2023年3月6日までに全てのチェック作業を完了した。

(2) 学外研修参加

藤井 雅人

2022年度における学外実技研修への参加状況は下記の通りであった。

・2023年3月6～8日に千葉工業大学・新習志野キャンパスで開催された「公益社団法人 全国大学体育連合 第14回大学体育指導者養成研修会」に、神田智浩が参加した。神田による本指導者養成研修会についての報告書は、2023年度4月開催の第1回目のスポーツ科学部教授会(2023

年4月5日)において、特に実技研修内容と講演内容に関わって報告される予定である。その際、前者については、「ゴルフ」および「レクリエーションスポーツ」を中心に、また後者については、基調講演「教えと学びのデザイナー—大学における今後の授業設計のあり方」および特別講演「体育外専門分野を活かした学際的なスポーツ授業」に関して、今後の授業の質向上に向けた有益な情報提供がなされることになる。なお、本研修会への参加には、大学からの「FD活動推進経費」が用いられた。

また、下記のように、複数人の教員が対面形式による2つの研修会に参加した。ただし、研修会参加後に教授会報告等による情報共有はなされなかった。

・九州地区大学体育連合夏期研修会（九州体育・スポーツ学会との合同企画）（2022年8月27日：九州保健福祉大学）に、柿山哲治、藤井雅人らが参加し、「研究ベースの九州地区大学体育連合70年—大学体育の教育成果の再考—」というテーマで今後の大学体育授業のあり方について議論した。

・九州地区大学体育連合「—2022（令和4）年度春期—体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」／公益社団法人 全国大学体育連合主催「第11回大学体育スポーツ研究フォーラム」

（2023年3月13・14日：九州産業大学にて合同開催）に、藤井雅人、山口幸生の2名が参加した。なお、山口が一般発表において研究報告を行い、九州地区大学体育連合優秀発表賞を受賞した。

(3) ワークショップ、研修会の開催

藤井 雅人

スポーツ科学部では例年、旧年度末から新年度はじめにかけて、特に新任助教・助手を対象とした研修会を実施している（ただし現任助教・助手も可能な限り参加が求められている）。2022年度研修会は、旧年度の3月17日より開始され、4月8日まで行われた。主な研修内容として、福岡大学およびスポーツ科学部での教育目標・活動についての理解、助教・助手の学部運営業務の引継ぎ等とともに、共通教育科目である保健体育科目「生涯スポーツ演習」での実技指導を念頭に置いた実技研修が実施された。具体的には、生涯スポーツ演習で教材として取り上げられているサッカー、バレーボール、ソフトボール、バスケットボール、テニスといったスポーツ種目について、当該種目を専門とするスポーツ科学部専任教員より研修を受けた。さらに、全般的なフィットネス領域の指導についても、全体研修、および複数設定された班別研修が実施されたほか、緊急時対応やAEDでの救助法の研修なども行われた。これらの研修での成果を踏まえて、新任助教・助手（現任助教・助手も含めて）は、新学期より学生教育に携わっていくことになった。

また、2023年1月13日には、「PROG コンピテンシーテストの結果をスポーツ科学部独自アンケートと紐づけて分析する—その3：縦断的およびクラスター分析の結果から」と題した令和4（2022）年度スポーツ科学部主催FDワークショップが、近藤賢氏、田辺明博氏（ともに株式会社リアセック）、山口幸生氏（本学スポーツ科学部教授）を講師として、「Webex Meetings」を利用したLIVE配信によって開催された。本FDワークショップには、スポーツ科学部から講師以上の専任教員および助教・助手のほぼ全員に該当する計55名（在外研修中の教員1名、および体

調不良により療養中の教員 2 名の計 3 名のみ欠席)、教育技術職員 2 名、事務職員 2 名が参加することとなった。また、教育開発支援機構から関係教員 4 名、教務一課事務職員 2 名、キャリアセンター事務職員 1 名の参加もあり、本 FD ワークショップへの参加者総数は 66 名となった。なお、本 FD ワークショップは、大学からの「FD 活動推進経費」を用いて開催された。

2015 年度以降 8 年連続でコンピテンシーテストが主題となることになった、このスポーツ科学部主催 FD ワークショップでは、特に過去 2 年度分の FD ワークショップの成果を踏襲する形で、クラスター分析という統計手法を用いた「スポーツ科学部新入生の特徴分析」の結果について(山口氏)、また新しい試みとして、個人のコンピテンシーの向上の背景にフォーカスした質的分析の結果について(田辺氏)情報共有するとともに、それらの分析結果から見えてくる今後の学部教育の方向性を議論することを主要な目的とした。また、その点に先立って、昨年度までと同様に、2022 年度のコンピテンシーテストの結果に関わる全体的傾向を把握し、その特徴を探る(近藤氏)ことも目指された。

本 FD ワークショップではまず、近藤氏に、2022 年度の 1 年生および 2 年生のコンピテンシーテストの結果、また 2 年生のその経年的変化、コロナ禍にあった 2020~2022 年度の 1 年生および 2 年生の比較分析結果、本学部のディプロマポリシーとコンピテンシーとを関連づけた分析結果、高校時代の競技レベルやそこでの指導スタイルといった本学部独自アンケート調査項目とコンピテンシーの関連性などを報告いただいた。近藤氏によれば、本学部生のコンピテンシーは確かにコロナ禍の影響を受けて低下している面も見られるが、概ね十分なレベルは維持されている。

続いて山口氏に、「スポーツ科学部生のコンピテンシー変化にコロナ禍が及ぼした影響/スポーツ科学部新入生の特徴分析」について報告いただいた。そこでは、コロナ禍学生には、コンピテンシー総合、「對自己基礎力」およびその下位因子である「自信創出力」「行動持続力」、「対課題基礎力」の下位因子である「課題発見力」の各スコアの経年的な低下が見られ、コロナ禍による様々な環境の変化がコンピテンシー育成に影響を及ぼした可能性があると考えられた。また、山口氏は、コンピテンシーテストおよび本学部独自アンケート調査の結果を用いたクラスター分析から、本学部の新入生において生成された「男子競技志向」「男子勉強志向」「女子勉強&競技志向」という 3 つのクラスターについて述べるとともに、各クラスターの特徴を参考にした、スポーツ科学部の学生募集戦略の立案や教育活動の方針決定の可能性に言及した。

最後に田辺氏から、4 年間の大学生活を通してコンピテンシースコアが大きく向上したと考えられる 1 人の本学部卒業生を対象とする、コンピテンシーの変化とその背景に着目した質的分析の報告がなされた。それに関する議論において、山口氏も強調していた、その学生の置かれている文脈や状況を考慮したコンピテンシーの「やわらかい評価」の活用の重要性に再三言及されることとなった。

また、FD ワークショップ全体における議論の中で、教員が描くスポーツ科学部の学生像とコンピテンシーテストの客観的データとを突き合わせて、スポーツ科学部生に求められるコンピテンシーとは何かを丁寧に探っていくこと、さらにコンピテンシーテストによって測定可能とされるビジネスマンが理想とするコンピテンシーと、スポーツ科学部生が卒業後も備えるべきコンピテンシーを同じものとして捉えて良いのかを再度検討し、場合によっては、スポーツ科学部が自ら、その学部生に必要なコンピテンシーを新たに設定していくことなどが提案された。

最終的に本 FD ワークショップでは、今後のスポーツ科学部の取り組みについて、これまでと同様にコンピテンシーテストによる客観的で、厳密な評価とその結果の分析を継続するとともに、前述した学生の置かれた文脈や状況を考慮した「やわらかい評価」の導入や、より低コストでかつ簡便な、縦断的に測定可能なツールの開発も視野に入れながら、スポーツ科学部生が学部教育を通して身につけるべきコンピテンシーとは何かを探求し、引き続きその育成に努めていくということでコンセンサスが得られた。

また、大学院スポーツ健康科学研究科主催 FD 研修会「英語プレゼンに役立つスライドデザインと 2 つの『間』」が、2022 年 9 月 9 日に、東京理科大学先進工学部マテリアル創成工学科准教授の保原浩明氏を講師としてオンライン形式によって実施された。教職員と大学院生を含む 20 名が参加した。保原氏の講演の主な趣旨は、日本人による英語によるプレゼンテーションの問題点は実は「英語」そのものではなく、それ以前のスライドの構成や話し方などプレゼンテーションの作法（マナー）を理解していないことであるというものであった。タイトルにある「間」の意味は、スライドをシンプルでスタイリッシュにするための余白、スライド間を論理的かつスムーズにつなぐためのスライド間のトーク、聴衆の理解を深めるためのトークの「間」であった。講演後は活発な質疑応答が行われ、英語プレゼンのやり方に関する議論が深められた。

(4) 授業アンケート

藤井 雅人

2022 年度の授業アンケート FURIKA は、前期 7 月 4 日～8 月 5 日、後期 12 月 13 日～1 月 16 日の期間で実施された。コロナ禍にあった 2020 および 2021 年度の FURIKA では遠隔形態での授業をアンケート対象に含まざるを得なかったが、2022 年度は前後期ともに面接（対面）形態での授業実施が原則であったため、FURIKA の結果もそれに対応している。

「2022 年度前期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」（回答学生数／履修学生数）は 58.6%（大学全体の回答率は 43.4%）、「実施率」（回答率 30%以上の回答科目／対象科目）は 81.2%（大学全体の実施率は 61.6%）であり、前年度前期と比較して、前者は 6.8%、後者は 7.6%上昇した。いずれも他学部と比較して高い数値ではあるものの、初めて FURIKA が導入された 2018 年度前期の数値（「回答率」82.3%；「実施率」97.3%）に鑑みれば、依然として改善の余地が大きいように思われる

また、全スポーツ科学部専門教育科目のシラバスに示されている到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」を、スポーツ科学部ディプロマポリシーに即して見てみると、「学部長・センター長／学位（教育）プログラム責任者・学部単位の登録者」のみが閲覧可能な「分析（レポート）」によれば、平均して「知識・理解」4.2、「技能」4.3（ただし「態度・志向性」は記載なし）となり、例年と同様に非常に高い値を示した（5 点が最高点）。また、授業への主体的・積極的な取り組みを示す「積極性」については 4.3、授業内容の理解に関わる「理解度」についても 4.3 となり、到達度と同様に高値となった（ともに 5 点が最高点）。ただし、「FU プラスアップ授業」がどの程度自身の学修の促進に役立ったかについては、運用が開始された昨年度の 3.5 から 3.1

に低下した。なお、「1回の授業に対する学習時間」は1.6にとどまった（「1:0-30分未満」「2:30-60分未満」）。

次に、「2022年度後期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」は44.2%（大学全体：34.2%）、「実施率」は54.1%（大学全体：51.1%）であり、例年どおり前期よりもかなり低下している。

また、シラバスの到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」は、前述の「分析（レポート）」によれば、「知識・理解」4.1、「技能」4.4、「態度・志向性」4.2となり、前期と同様に非常に高い結果となった。さらに、「積極性」および「理解度」についても、ともに4.3と高値を示した。「FUプラスアップ授業」については、前期より上昇し3.5となった。「1回の授業に対する学習時間」は、前期とほぼ同様の1.5にとどまった。なお、前後期ともに、共通教育科目における保健体育科目を個別に対象とするFURIKAの結果は示されていない。

以上のように、2022年度前・後期のFURIKAの全体的な結果からは、例年と同様に、スポーツ科学部生が専門教育科目の授業での「到達度」「積極性」「理解度」に関わる自らのパフォーマンスを高く評価していることがわかる。ただし、「FUプラスアップ授業」については前期3.1、後期3.5とあまり高い数値とはいえ、今後受講生の学習を促すための何らかの改善が必要といえるかもしれない。また、「1回の授業に対する学習時間」については、コロナ禍で原則遠隔形態での授業を余儀なくされた一昨年度および昨年度と比較して減少傾向を示した（一昨年度前期2.5に対して今年度後期1.5）。面接（対面）形態での授業に戻ることで「1回の授業に対する学習時間」が一定程度減少するのはやむを得ない面もあるが、今後は学習時間の確保のための様々な工夫（例えば、座学での学習理解を運動部活動などでの実践に意識的に活かすための取り組みを学習時間とみなすなど）が求められよう。

実施率については、後期が前期に比べてかなり低下する傾向はこれまでと変わらなかった。教務課から入手した資料によれば、こうした実施率の低さの要因として、当該科目の受講者総数に占める回答者の割合が30%未満であることにより未実施科目に分類されてしまっているという点、また特に3年生および4年生のゼミナールでの実施率が低い（回答者が少ない）という点を指摘できることから、担当教員による回答率の増加のための働きかけ次第で実施率は上昇するものと思われる。担当教員を中心とする今後の改善が望まれる。

このFURIKAの特徴の1つとして、担当教員、学位（教育）プログラム責任者の教員、学生にそれぞれきめ細やかなフィードバック情報をウェブ上で提供していることが挙げられるが、2022年度も学生や教員によってそうした情報が十分に活用されているとはいえない状況が続いた。とりわけスポーツ科学部生によるフィードバック情報の閲覧率は極めて低いままである。今年度も、昨年度同様に、例えば3年生および4年生のゼミナール担当教員に、前後期第1回目の授業でのゼミナール学生がフィードバック情報を閲覧する時間の確保や、そうした情報から得られる学びや気づきの重要性等についての説明・指導を依頼したが、学生にはなかなかFURIKA実施の意図や意義が伝わらないというのが現状である。教員自身がFURIKAの意義を十分に理解した上で、引き続き学生に粘り強く働きかけていくことが必要であろう。

教員によるフィードバック情報の活用については、依然としてスポーツ科学部全体での組織的・体系的な活用ができていないこともあり、個々の取り組みに依存しているところがある。今後の

改善が必要であろう。ただ一方で、FURIKA 実施後のフィードバック情報の公開に際して、非常勤講師を含む学部専門教育科目および保健体育科目の担当者に、「この授業であなたが学んだことは何でしょうか」という質問に対する受講生の記述回答（いわゆる「学生コメント」）の公開選択（現在は自動的にすべての「学生コメント」が公開となるように設定されているため、担当教員が公開を望まないコメントを選択する必要がある）、およびその「学生コメント」を受けての「教員コメント」の記入（本学部では 2021 年度より記入を義務化）について説明・依頼しているが、他学部と比較してもかなり積極的な担当教員の対応が見られる。例えば、教務課から入手した資料に基づき「教員コメント」の記入率を見てみると、学部専門教育科目は前期 76.5%および後期 83.1%、保健体育科目は前期 79.6%および後期 61.9%と非常に高い。このように、まだ組織的・体系的な活用には至っていないものの、担当教員によるフィードバック情報の活用の意識は高まってきていると評価できる。ただし、これまでと同様に、特定の教員のコメント記入がなされていない傾向も見受けられるので、担当教員に対する一層の啓蒙は必要であろうし、これらの成果が、フィードバック情報を閲覧する学生に深い学びや新しい気づきを与えるきっかけとなるような工夫も求められよう。

また、大学院スポーツ健康科学研究科も 1 月 16 日～1 月 27 日にかけて、博士課程前期および後期の全在学者（早期履修者を含む。ただし休学中の 2 名を除く）28 名を対象に FD アンケート調査を実施し、19 名による回答を得た。そこでは、「研究指導満足度」について「大変満足」「満足」とした回答者の割合が 80%半ばとなっており、90%を超えていた昨年度から低下傾向が見られた。「特論満足度」についても、「大変満足」「満足」と回答している割合が 60%強にとどまり、一昨年度および昨年度の約 90%から大きく低下した。この「特論満足度」では、「不満」と回答する者も数%みられた。ここ何年かは「特論満足度」が大変高い状況にあったことに鑑みて、どのような理由で今回の満足度の低下が生じてきているのかを探るとともに、その対策についても考える必要があるといえよう。なお、先日の第三期認証評価の際に大学基準協会から本 FD アンケート調査の結果のフィードバックに関する質問があったことも踏まえて、今後アンケート項目の追加や学生・教員へのフィードバック方法について検討していく予定である。

8 スポーツ振興・地域連携・社会貢献・高大連携

乾 真寛・小牟礼 育夫・柿山 哲治・下園 博信・田場 昭一郎

■ スポーツ振興・地域連携・社会貢献

1. 福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム(通称：FU スポまちコンソーシアム)設立

2022年9月14日学内の会議体を経て、社会連携センター内に事務局を置く形でFU スポまちコンソーシアム(共同体)が14参画団体、1事業別協力社により設立され、設立総会、幹事会、合同記者発表会が福岡大学内で開催された。スポーツ科学部のプロジェクトチームや学内の関係事務部署が参加する作業部会が設置され、コンソーシアムの運営、イベント、行事の計画、実行を担うこととなった。

2. 「感動する大学スポーツ支援事業」のモデル事業への公募申請

スポーツ庁による公募事業に申請し、全国で13大学が採択され福岡大学もそのひとつに選ばれ上限1千万円の補助金を受け、モデル事業を展開することになった。FU スポまちコンソーシアムの幹事会で定期的審議を重ねた上で10事業約1,800人参加のイベント講座体験教室等を開催した。

また、コンソーシアム全体では2022年9月から2023年1月末までに20事業を開催し約4千人が参加した。福岡市におけるスポーツ参画人口の拡大、幅広い年齢層へのスポーツ機会の創出や場の提供という課題に対して大きな成果を収めた。

3. ミズノ株式会社との協力協定による具体的活動の拡充

- ・授業(ピークパフォーマンス演習)への講師(4名)派遣協力
- ・タペストリーの作成・掲示
- ・FU スポまちコンソーシアムへのミズノ社の参画と事業協力

例年通り、ピークパフォーマンス演習への外部講師派遣について全面的協力を頂いた。また、全国大会上位入賞活躍者のタペストリーを制作し第二記念会堂内に掲示した。また、令和4年度は特にFU スポまちコンソーシアムの設立時にミズノ社九州支社長にコンソーシアム副幹事長に就任いただき、より強いパートナーシップを築くことにつながった。

4. UNIVAS 事業との連携拡充

- ・指導者研修の実施
- ・UNIVAS Awards の表彰
- ・スポーツサポーター養成
- ・正課授業内でのキャリア支援プログラムの継続

2年次ステップアップセミナーにおいて、UNIVAS とマイナビアスリートキャリア事業部の協力により、オンラインおよび対面授業(キャリア教育・人間力セミナー等々)を計4回実施し、学生の関心ある事例や興味深い資料とワーク、意見交換など有意義で好評であった。またUNIVAS

CUPにおいては、上位に進出し UNIVAS AWARD でも個人賞に多数ノミネートされた。

5. 福岡県・福岡市との連携事業

・アクション福岡との連携

1) アクア・スポーツ実習

「福岡大学とアクション福岡の教育連携協定」の申請により、2022年9月8日（木）にアクション福岡のプールを借用して、履修学生25名を対象にダイビング実習を実施した。

2) スケート実習

「福岡大学とアクション福岡の教育連携協定」の申請により、2023年1月31日（火）～2月3日（金）まで、アクション福岡のスケートリンクを借用して、履修学生64名を対象にスケート実習を実施した。

・福岡県教育委員会との連携

1) 教育実習事前・事後指導において、外部講師による特別講義を3回実施した。

2022年4月11日（月）

船津諒先生（福岡県教育庁教育振興部社会教育課 指導主事）

「学校と地域との連携について」

2022年4月18日（月）

井上義徳先生（福岡県教育庁教育振興部高等教育課 指導主事）

「学校における生徒指導の在り方について」

2022年12月5日（火）

寺崎雅巳先生（福岡県立美術館館長 元福岡県教育委員会副教育長）

「ポストコロナの教育を見据えて ～これからの保健体育科教師に期待すること～」

2) 教職演習 I において、外部講師による特別講義を2回実施した。

2022年7月5日（火）

中田雅子先生（福岡県立筑紫丘高等学校 養護教諭）

「特別支援学校の教育と高等学校における特別支援教育について」

2022年7月12日（火）

小松佐歳先生（福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ振興課長）

「福岡県の地域スポーツの現状について」

3) 教職演習 II において、外部講師による特別講義を2回実施した。

2022年7月5日（火）

高木浩信先生（福岡県教育長教育振興部体育スポーツ健康課 参事兼室長）

「これからの保健体育科教員に望むことについて」

2022年7月12日（火）

山本秀史先生（福岡県立講倫館高等学校 校長）

「保健体育科教員を目指す学生に望むことについて」

6. 社会連携センターとの連携事業

・地域支援および連携事業

- 1) 小学校対象サッカー教室、福岡大学フットボール・カンファレンス、ふれあいスポーツフェスタ、福岡大学招待中学校女子バレーボール大会、福岡少年院のサッカー指導、少年少女野球教室、スロージョギング教室
- 2) 那珂川市との高齢者の運動による健康づくり推進普及連携事業、福岡市立小学校を拠点とした教育支援プロジェクト、新体カテスト支援、水泳授業支援、スノーケリング授業支援、サッカー授業支援、スロージョギングプロジェクト

2022年度のコロナ禍の社会情勢の中「新体カテスト支援（塩原小学校）」「スロージョギング支援（ふくおか健康づくり県民会議）」「那珂川市と福岡大学との連携協定に基づく支援（運動指導）」を継続して実施した。コンソーシアム事業の詳細は下記の通りである。

参画機関

(1)自治体

- ・福岡市市民局 スポーツ振興部
- ・教育委員会 指導部
- ・福祉局 障がい者部

(2)自治体関連団体

- ・福岡市スポーツ協会
- ・福岡市障がい者スポーツ協会
- ・福岡市立障がい者スポーツセンター（さんさんプラザ）

(3)企業

- ・KIRIN キリンビバレッジ
- ・MIZUNO
- ・TUI Promotion

(4)スポーツ団体

- ・AVISPA FUKUOKA
- ・RIZING GEPHYR
- ・KYUDEN VOLTEX
- ・ANCLAS
- ・SoftBank HAWKS（事業別協力者）

開催イベント

8月

- ・スポーツ体験ランド in 福岡大学
福岡市スポーツ協会主催（後援：福岡大学）（8月20日）

9月

- ・アビスパ福岡アカデミー対抗戦（9月10・11日）
- ・キリンビバレッジサッカー教室：巻誠一郎（9月17日）
- ・福岡大学市民カレッジ講座（9月～12月）
キッズサッカー（7回）キッズ体操（10回）元気体操教室（13回）

10月

- ・楽しく学ぼう
大人のラグビー体験教室（10月～12月：全10回）
体づくり講座 ～スポーツライフを楽しく過ごす～（10月8・23日）
キリン幼稚園運動会 in 福岡大学（10月10日）
キリンビバレッジサッカー教室：福西崇史（10月10～15日）
スタージャンプ福岡 in 福岡大学 2022（10月29日）

11月

- ・先進事例研究会：立命館大学・青山学院大学（11月1日）
- ・小学校体育授業支援：百道浜小学校（11月11日～12月2日）
- ・小学校体育授業支援：別府小学校（11月25日～12月20日）
- ・福岡市教育委員会主催：教員向け研修会（11月24日）
- ・アクアフィット教室：社会人対象（11月24日～全5回）

12月

- ・FU スポまちコンソーシアム専用ホームページ開設（12月1日）
- ・ふれあいスポーツフェスタ：障がい者サッカーPart1（12月4日）
- ・精神障がい・視覚・聴覚・切断障がい交流会
- ・中学部活の地域移行問題・幹事長プレゼンテーション（12月15日）
- ・福岡大学主催
野球教室：福岡大学野球部 or ソフトバンクホークス（12月18日）

1月

- ・スポーツ施設 IT 管理システム導入：テスト使用開始（1月5日）
- ・ふれあいスポーツフェスタ：みんなでバスケ Part2（1月8日）
知的障がい・聴覚障がい者バスケ交流会
- ・福岡大学主催（1月29日）
第一回監督が怒ってはいけない大会 in 福岡大学
指導者・保護者向け講演会・小学生向け講演会も同時開催

2月

- ・弥永小学校の体育授業サポートおよび指導者講習会（2月8・9日）

■ 高大連携

高大連携事業は、主に福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校と行われている。

また、令和元年からは福岡市立四高等学校との連携も始められた。しかし、令年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に取り組み内容を縮小せざるを得ない状況であった。令和 3 年度に附属若葉高等学校は共学校としての完成年度を迎え、学友会活動ではサッカー部、ハンドボール部、水泳部では強固な連携体制が構築でき、特にサッカー部においては優れた競技実績を残すことができた。

【附属大濠高等学校】

9月 附属大濠高等学校模擬講義（2年生総合的な学習「福大講座」）および福岡市立高校高大連携プログラムにおいて、本学部教員が 60 分の模擬講義を行なった。

【附属若葉高等学校】

8月 本学部教員が 1 年生を対象に模擬講義を行なった。

10月 本学部教員が 2 年生を対象に模擬講義を行なった。

12月 本学部教員が 1 年生を対象に模擬講義を行なった。

また、複数の学友会活動において練習等の協力体制が構築されている。

【福岡市立四高等学校】

12月に、博多工業高校において、メンタルマネジメントについての講義を行なった。

9 国際交流

森口 哲史

■ 国際センター関連事業

1. 学部生に対する情報提供

新入生に対する対面式情報提供は、新型コロナウイルス感染症流行のため中止

2. 国際センタープログラムを活用した交換留学・海外研修

- ・ 交換留学；スポーツ科学部 1名（GS所属、セントラル・ランカシャー大学）
- ・ 海外研修；スポーツ科学部 0名、健康運動科学部 0名、計 0名

3. GAP連携のインターミディエイト・イングリッシュ GE クラスを履修した学生の短期海外研修 ⇒現在、新型コロナウイルス感染症流行の影響で中止中

4. 福岡大学国際交流チーム（FIT）登録者

2022年度 スポーツ科学部；2名（GS1名、GH1名）

■ 大学間学術協定 MOU、教員海外研修

1. 2021年度長期在外研究

川中健太郎 教授（研究期間；2022年1月から2022年9月まで）

英国 Nottingham University

米国 University of Utah

2. 2022年度長期在外研究

柿山哲治 教授（研究期間；2022年9月から2023年9月まで）

キューバ UCCFD（マニユエル・ファハルド国立体育大学）

■ 留学生関係

1. 外国人留学生数

大学院博士後期課程 0名、博士前期課程 2名、学部留学生 0名、

学部聴講生 1名（ウクライナ国立体育スポーツ大学学生 2022年11月～2科目）

2. 学部留学生入学試験

スポーツ科学部；受験者 1名、合格者 0名、入学者 0名

3. 短期留学生の受け入れ

スポーツ科学部；志願者 0名

■ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

1. アスリート・コーチ育成プログラムによる海外研修

新型コロナウイルス感染症流行のため中止

■ 大学院学術交流

1. スポーツ健康科学研究科と釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流
新型コロナウイルス感染症流行のため中止

10 教職課程

柿山 哲治・今村 律子

■ 教職課程登録者数（2022年度）

| 学部 | 学科 | 22台 | 21台 | 20台 | 19台以前 | 合計 |
|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-----|
| スポーツ科 | スポーツ科 | 149 | 135 | 107 | 84 | 475 |
| | 健康運動科 | 51 | 42 | 38 | 28 | 159 |
| 合計 | | 200 | 177 | 145 | 112 | 634 |

■ 社会教育主事課程科目登録者数（2022年度）

| 学部 | 学科 | 22台 | 21台 | 20台 | 19台以前 | 合計 |
|-------|-------|-----|-----|-----|-------|----|
| スポーツ科 | スポーツ科 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 健康運動科 | | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | | | 0 | 1 | 0 | 1 |

■ 教員免許状取得状況（2022年度）

*卒業生数に19台以前も含む

| 学部 | 学科 | 卒業生* | 免許状取得者数 | 免許状取得率 |
|-------|-------|------|---------|--------|
| スポーツ科 | スポーツ科 | 215 | 76 | 35.3% |
| | 健康運動科 | 71 | 28 | 39.4% |
| 合計 | | 322 | 104 | 32.3% |

■ 教員免許状（一種）一括申請者数（2022年度）

| 学部 | 学科 | 申請者数 | 中一種 | 高一種 | 申請件数 |
|-------------|-------|------|------|------|------|
| | | | 保健体育 | 保健体育 | |
| スポーツ科 | スポーツ科 | 76 | 36 | 76 | 112 |
| | 健康運動科 | 28 | 21 | 28 | 49 |
| スポーツ健康科学研究科 | | 4 | 2 | 4 | 6 |
| 科目履修生 | | 5 | 5 | 2 | 7 |
| 合計 | | 113 | 64 | 110 | 174 |

■ 保健体育教員コース（学部推奨カリキュラム）

3年次生を対象としたコース選択について、「保健体育教員コース」へ26名の希望があった。志望理由書の提出等の一次書類選抜を行い、二次面接を経て24名を合格とした。24名は、「保健体育教職演習Ⅰ」「教職事前実習」を履修しており、教育実習および教員採用試験に向けた実践的な指導を受けた。また、夏期・春季には勉強会や模擬試験受験を実施した。

4年次生は「保健体育教職演習Ⅱ」を履修し、授業内で教科指導力をより向上させ、教員採用試験対策も同時に行った。教員採用試験の一次試験を通過した者に対して、当学部の教員によって、夏期休業期間に二次試験対策（模擬授業・面接・実技種目）を実施した。他のコース所属者に対しても対策の相談を受け、一次を通過している者に二次対策支援を行った。

■ 教員採用試験合格者数

<一次試験合格者> 16名 *内12名が保健体育教員コース

<最終合格者> 9名<佐賀県小学校1名、福岡市中学校2名、福岡県小学校1名、福岡県中学校3名、広島県中学校1名、宮崎県高等学校1名> *内7名が保健体育教員コース者

11 就職・進路

(1) スポーツ科学部

野口 安忠

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、企業の採用活動意欲は回復したものと考えられ、全国大卒求人倍率は1.58倍と0.08ポイント上昇し（リクルートワークス研究所調べ）、本学に寄せられた求人件数も17,388件と13.7%増加した。就職率は大学全体で96.6%（0.5%増加）、本学部においても全体で99.6%（0.4%増加）、男子100.0%（0.6%増）、女子98.8%（同）と昨年度に比べて増加した。なお、就職先の業種別内訳については円グラフに示したとおりである。



令和4年度 スポーツ科学部における就職先の業種別内訳

◇主な就職先

（株）一条工務店、積水ハウス（株）、大和ハウス工業（株）、ミサワホーム九州（株）、東京ガスネットワーク（株）、（株）リョウユーパン、白元アース（株）、日本製鉄（株）、YKK AP（株）、パナソニック インダストリー（株）、NECソリューションイノベータ（株）、（株）ミロク情報サービス、九州旅客鉄道（株）、（株）安川ロジステック、（株）良品計画、（株）大塚商会、九州三菱電機販売（株）、（株）南陽、リコージャパン（株）、新日本製薬（株）、（株）ローソン、福岡トヨペット（株）、（株）博多大丸、（株）鹿児島銀行、（株）佐賀銀行、（株）山口フィナンシャルグループ、楽天証券（株）、日本生命保険相互会社、NTT・TCリース（株）、高見（株）、（株）大広九州、（株）星野リゾート、コナミススポーツ（株）、（株）ダンロップスポーツウェルネス、（株）

JTB、福岡県教員（小学校）、佐賀県教員（小学校）、福岡県教員（中学校）、福岡市教員（中学校）、宮崎県教員（高校）、法務省専門職員（人間科学）、刑務官、福岡市役所、春日市役所、長崎市役所、佐賀県警察本部、熊本県警察本部、大分県警察本部、下関市消防局、糸島市消防本部

| |
|-----------------------|
| （2）スポーツ健康科学研究科 |
|-----------------------|

| |
|-------|
| 布目 寛幸 |
|-------|

前期課程修了者の就職先は、九州産業大学（助手 1 名）、中村学園大学（非常勤講師 1 名）、福岡市中学校教員（1 名）、福岡県内中学校教員（1 名）、福岡大学大学院（研究生 1 名）、株式会社スカイネクスト（1 名）、医療法人好古堂（1 名）、TOTO 株式会社（1 名）、未定（1 名）であった。

後期課程修了者はいなかった。

12 広報推進

小牟礼育夫・上原吉就・下園博信・森口哲史・今村律子・岡部奈央・村山さら

■ 学部ホームページ更新と新規サイトの追加

2022年度、学部ホームページの情報更新作業は、年次更新（「トップ選手を輩出」卒業生と現役学生の確認）、随時更新（TOPICS）が中心となっている。

2022年度 カテゴリー別更新件数（単位：件）*述べ件数

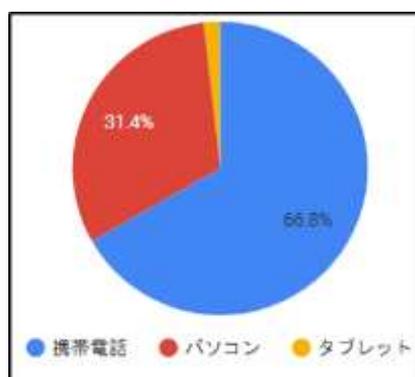
| カテゴリー | 入試情報 | 部活動 | 教育・研究 | 学生・教員の活躍 | お知らせ | 試合結果 | 合計 |
|-------|------|-----|-------|----------|------|------|----|
| 更新件数 | 2 | 3 | 1 | 4 | 11 | 31 | 52 |

アクセス解析ツール（Google アナリティクス）を使用し、本学部サイトのアクセス状況をまとめた。入試情報サイトへのアクセスを目標項目とした場合のアクセス状況、デバイス別アクセスと都道府県別アクセスランキングを下記に示す（2022/4/1～2023/3/31調べ）。



【目標】入試情報サイト到達（スポ科 HP 画面下の入試情報サイトボタンをクリック）

日別アクセスユーザー数と目標完了数



デバイス別アクセスの割合

都道府県別アクセスランキング（目標到達順）

| 都道府県名 | ユーザー | 目標1の完了数 | 目標1のコンバージョン率 |
|---------|--------|---------|--------------|
| 1. 福岡県 | 12,643 | 5,468 | 33.18% |
| 2. 東京都 | 14,309 | 4,065 | 24.55% |
| 3. 大阪府 | 4,038 | 1,232 | 26.44% |
| 4. 判定不能 | 2,131 | 1,231 | 52.61% |
| 5. 熊本県 | 1,185 | 658 | 38.23% |
| 6. 広島県 | 1,218 | 558 | 37.65% |
| 7. 佐賀県 | 717 | 549 | 50.69% |
| 8. 長崎県 | 944 | 477 | 41.55% |
| 9. 鹿児島県 | 706 | 474 | 48.77% |
| 10. 山口県 | 747 | 453 | 47.09% |
| 11. 宮崎県 | 670 | 362 | 44.25% |

動画掲載サイト「動画でみるスポーツ科学部」には、実習や授業等の動画などを毎年報告として掲載し、大学生活の様子などを発信している。大学院の紹介動画も掲載している。

■ 大学院スポーツ健康科学研究科ホームページ更新

随時更新（TOPICS）では、行事・イベント、学会発表、論文発表・論文掲載、研究会開催、大学院生の取り組み、その他、教員の活躍などのカテゴリーが設定されている。来年度の日本体育・スポーツ・健康学会を開催する上で、今後も引き続き学部との連携を図る。

■ 入試広報活動ーオープンキャンパス

2022年8月6（土）、オープンキャンパスが開催され、学部では模擬講義や施設紹介を行った。また、ゲストを招聘しトップアスリートの講演会を行った。受験生の志望動機のひとつである保健体育教員の養成内容についても2回に分けて説明し、実際の教員採用試験対策をしている4年生をWebexでリアルタイム配信し、保護者も含め取り組み内容を伝えられたと思われる。

■ 学部広告掲載一覧

| | | |
|----------------------------|--------------------------------------|-----------|
| 一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会 | 2022年8月31日（水） ～9月2日（金）開催 順天堂大学 | A4 白黒1ページ |
|----------------------------|--------------------------------------|-----------|

13 外部資金獲得実績

道下 竜馬

| 科学研究費 (R4 年度) | | (含間接経費) | |
|---------------|--------|---|-----------|
| 研究種目 | 代表者名 | 研究課題 | 金額 (円) |
| 基盤研究 (B) | 檜垣 靖樹 | エピジェネティック修飾による運動適応機構の解明 | 3,120,000 |
| 基盤研究 (B) | 上原 吉就 | 運動による骨格筋高比重リポ蛋白 (HDL) 産生 システム の発動とその作用解明 | 3,770,000 |
| 基盤研究 (B) | 道下 竜馬 | 「時間運動学」に基づいた疾病予防や改善のために有効な運動プログラムの開発 | 4,290,000 |
| 基盤研究 (B) | 川中 健太郎 | 筋量増加に有効な食事処方に関する研究 -糖質が筋タンパク質合成を促進する可能性- | 5,460,000 |
| 基盤研究 (C) | 柿山 哲治 | バスケットボール移入史の再構築 | 1,430,000 |
| 基盤研究 (C) | 布目 寛幸 | 核磁気共鳴画像法 (MRI) を用いた日本人身体部分慣性特性標準データの確立 | 910,000 |
| 基盤研究 (C) | 伊藤 奨 | 柔道の崩し動作の習得に向けたトレーニング方法の開発 | 1,820,000 |
| 基盤研究 (C) | 川上 翔太郎 | 腎血流量を維持し腎臓にストレスをかけない最適な運動条件の探索 | 1,690,000 |
| 挑戦的研究 (開拓) | 檜垣 靖樹 | 身体運動とうま味で奏でる スポーツと健康の価値の創造 | 5,070,000 |
| 若手研究 | 古瀬 裕次郎 | 地域高齢者の認知症及び認知機能低下リスク要因の検討 -10年前向きコホート研究- | 390,000 |
| 若手研究 | 呉屋 良真 | 視覚運動パフォーマンス向上を目的とした運動視訓練法の効果検証とその神経機構の解明 | 460,000 |
| 若手研究 | 富賀 理恵 | サルコペニア肥満の早期検出因子としてのエンブティ・カロリー摂取量の有用性の検討 | 2,144,023 |
| 若手研究 | 木戸 康平 | 運動後の糖・タンパク質代謝適応を同時制御する新たな筋内分子機構の解明 | 1,430,000 |

受託研究 (R4年度)

| 依頼者 | 研究代表者 | 研究課題 | 金額 (円) |
|-----------------------|-------|-----------------------------------|-----------|
| 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 | 檜垣 靖樹 | たんぱく質必要量の評価のための基礎データ構築研究 | 5,005,000 |
| 中村学園大学 | 道下 竜馬 | メタボリック症候群の個々人の心音に基づく運動アドバイスシートの開発 | 18,000 |

共同研究 (R4年度)

| 依頼者 | 研究代表者 | 研究課題 | 金額 (円) |
|-----------------------|--------|---|-----------|
| ノッティンガム大学 | 川中 健太郎 | Investigating the impact of increasing the energy intake and protein intake upon the rates of muscle protein turnover | 0 |
| 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 | 檜垣 靖樹 | 野球選手のエネルギー必要量および身体的特徴の解明ならびに運動パフォーマンスとの関連に関する研究 | 1,500,000 |
| 美津濃 (株) | 上原 吉就 | 温熱と免疫に関する共同研究等 | 3,107,900 |

研究助成寄附金 (R4年度)

| 機関名 | 研究代表者 | 研究課題 | 金額 (円) |
|-------------------------------------|--------|---------|-----------|
| 流通経済大学 | 柿山 哲治 | 研究助成のため | 100,000 |
| (株) ワンダーイヤーズ | 岩崎 領 | 研究助成のため | 500,000 |
| 一般財団法人 杉山産業化学研究所 | 古瀬 裕次郎 | 研究助成のため | 1,000,000 |
| Raydel Korea Co., Ltd. Byong Ku Lee | 上原 吉就 | 研究助成のため | 4,198,222 |
| 住友ファーマ (株) | 上原 吉就 | 研究助成のため | 300,000 |
| アミカス・セラピューティクス (株) | 上原 吉就 | 研究助成のため | 700,000 |

14 リスクマネジメント委員会

乾 眞寛・小四郎丸 聖

学部内に「リスクマネジメント委員会」が設置されてきた経緯は、2012年12月の女子指定寮「あしかり荘」の火災事故により、本学部生1名が死亡する痛ましい出来事がきっかけであったと記憶している。私自身は当時学生部委員でもあり、被害者学生やご家族、関係する運動部学生の聞き取り調査や心のケア、賠償問題、再発防止策、報告書作成など長期間にわたり非常にデリケートな問題に対処した。その際、学部内に事件・事故・災害等に対して緊急を要する判断や迅速な初期対応する委員会が必要であるという認識から2013年度から学部内に「リスクマネジメント委員会」が設置された。

その後は、2016年の熊本地震の際の安否確認や被災学生の調査などを行ってきた。

2020年度は、年度当初から新型コロナウイルスへの学部対応が求められ、過去に経験したことのない状況下で、学部の教職員、学生、そのご家族の安全・安心、生命を守るために学部長、日高事務室長と共にコロナ対策の最前線で情報収集と感染対策管理、陽性者情報の確認と対応策の検討、学生課・保健所との連絡など、スピード感を持って具体的な判断を行い関係各部署に連絡を取り、連携して問題解決を実行していくことが求められた。

2022年度(令和4年)は、コロナ対策も徐々に緩和され、対面授業や定期試験もコロナ禍以前の状態に戻っていく「With コロナ時代」への移行期とも呼べる一年であった。

スポーツ科学部の恒例行事である学部際も復活し、831教室での先輩と語る講演会、午後のスポーツ大会行事も盛大に開催された。

リスクマネジメント委員会では、宿泊(連泊)飛行機での移動を伴うスキー実習の実施について集団感染、ホテル内感染者の隔離、教員の配置、交通機関のキャンセル料など多面的に検討した結果、実習再開の判断を下した。幸い、スキー実習による集団感染の事例はなく、無事に実習を終えることができたのは幸いだった。

(1) スキー実習の復活

学部内の内科・外科のドクターである、上原、重森、吉村3氏からの指摘事項や感染対策について学部長、教務委員、実習主任教員、リスクマネジメント委員会が慎重に協議を進めた上で最終的に実習開催の決定に至った。

(2) 学部内正課実技授業内での申立事案

スポーツ科学部の専門実技授業において、学生側から相談が学生課窓口にあり、学部内の調査委員会を設置し、当該学生及び部活顧問、友人等の聞き取り調査を実施した。また、当該教員への事情聴取も数回行い、公正さを保ちかつ厳正に対処した。本件は当該教員への厳重注意処分と授業計画(シラバス)や評価基準の見直しを学部長から指示することになった。

(3) 未成年飲酒、酒気帯び運転事件

運動部学生による未成年飲酒とそれに伴う飲酒運転による検挙という事案が発生した。処分は無期停学、退学処分となったが、学部生が関わる重大事件であった。

| No | 日付 | 開始時刻 | 議題 |
|----|------------|---------|--------------------------------|
| 1 | 令和4年8月31日 | 19時05分～ | ハラスメント事案にかかる調査方針の協議 |
| 2 | 令和4年9月2日 | 13時30分～ | ハラスメント事案にかかる被申立人へのヒヤリング及び対応の協議 |
| 3 | 令和4年9月8日 | 15時00分～ | ハラスメント事案にかかる被申立人へのヒヤリング及び対応の協議 |
| 4 | 令和4年9月16日 | 10時00分～ | ハラスメント事案にかかる申立人へのヒヤリング及び対応の協議 |
| 5 | 令和4年10月3日 | 16時30分～ | ハラスメント事案にかかる報告書作成について協議 |
| 6 | 令和4年10月17日 | 16時30分～ | スポーツ科学部長より被申立人への嚴重注意 |
| 7 | 令和5年1月10日 | 16時30分～ | スキー実習について |

15 関連資料一覧

- ※ 福岡大学 大学案内
- ※ 福岡大学スポーツ科学部 学部ガイド
- ※ 福岡大学入試ガイド
- ※ 福岡大学要覧

- ※ 福岡大学スポーツ科学研究

- ※ 教育開発支援機構年報

- ※ 福岡大学研究推進部年報

- ※ 福岡大学スポーツ科学部卒業論文抄録集（令和4年度）

- ※ 教育実習報告書
- ※ 教職事前実習報告書

- ※ 大学生のスポーツと健康生活（大修館書店）

福岡大学
スポーツ科学部 大学院スポーツ健康科学研究科 年報
令和四年度（2022）第8号

発行日 令和5年7月発行
編集者 学部年報編集委員会
田口晴康 森口哲史 信岡沙希重 神田智浩
発行者 福岡大学スポーツ科学部
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1
TEL : 092-871-6631(代) FAX : 092-865-6029

